

# 浅野誠

# 自然

2010～2017

私のブログ「田舎暮らし・人生創造・浅野誠」（2013年まで）「沖縄南城・人生創造・浅野誠 <http://makoto2.ti-da.net/>」（2013年から）に掲載してきた自然にかかわる記事を編集して作成したものだ。

同様のものは、「写真集 沖縄田舎暮らし 自然につつまれて」電子本（発売 Nansei）2012年、「動植物シリーズ5 我が家周辺の動物たち」2013年（本ホームページに収録）をすでに公開しているが、それらに収録したものは、本書ではカットしている。

なお、各節のなかでの記事は、ブログ公開順に並べてある。



# 目次

## 空・天体・景観

7

静かな初日の出 新原ビーチから	2017年1月1日
大嫌いなPM2.5が夕陽を美しくする	2016年8月31日
虹	2015年9月27日
美しい雲 巻雲?	2015年5月17日
皆既月食	2015年4月4日
美しい日没の連続写真	2015年1月9日
初日の出	2015年1月1日
スーパームーン	2014年9月12日
満月	2014年8月13日
空と海の景観	2014年5月24日
初日の出 百名ビーチのヤハラヅカサ近くから	2014年1月1日
虹がかかった雲が膨れ上がり、雨が到来	2013年8月22日
巨大雲の物語	2013年7月11日
七夕 星の撮影に挑戦 さそり座と織女牽牛	2013年7月8日
イノーからの夕陽	2013年7月5日
満月の写真	2013年6月29日
我が家にかかる虹 梅雨の晴れ間の太平洋	2013年5月28日
ヤハラヅカサにて、初日の出	2013年1月1日
奥武島龍宮からの朝日	2012年9月17日
沖縄では部分日食	2012年5月21日
夕陽 人影	2012年1月23日
虹 入道雲 今朝の空	2011年8月29日
タマグスクから我が家を見る	2011年6月29日
夕焼け三景	2011年6月28日
奥武島龍宮からみる新原方向と摩文仁方向	2011年6月25日
夕陽・摩文仁丘・平和祈念資料館・風車	2011年6月
久々の夕焼け	2011年5月21日
今日の夕陽	2011年4月15日
イノーからの帰り道、畑の中、夕陽に出会う	2011年1月25日
ベランダのブーゲンビリアの向こうに夕陽が沈む	2011年1月13日
今日の夕陽	2011年1月5日
冬至の日の入り	2010年12月22日

日没後20分の夕焼け 摩文仁の丘あたり	2010年12月6日
日没数分前...赤・青・白・灰・黒の彩り豊か	2010年12月2日
今日の夕焼け	2010年11月17日
今日の夕陽	2010年11月9日
日出連写	2010年10月25日

## 海・海岸

29

ヤハラヅカサ散策 蟹と蛙そっくりの珊瑚石	2014年5月11日
ヤハラヅカサ往復8000歩散策	2014年2月6日
佐敷干潟風景	2014年2月4日
沖縄の自然を守り育てるマングローブEEクラブ	2014年1月25日
マングローブが7本、中山海岸に根付いている	2013年10月28日
私の散策路 海岸・イノーコース	2013年3月19、21日
海風景 奥武島旧正の大漁旗 海岸に繁殖するツルナ	2012年1月26日
いろいろな船が通る	2012年1月4日
中山海岸、きれいになる	2011年8月27日
私が大好きな岩 「鳥のくちばし岩」	2011年5月18日
春の海 中山海岸 鳥と海藻	2011年2月23日
中山海岸の変化...ヒルギの幼木があちこちに	2011年2月13日
中山海岸の変化 ...砂地が広がった	2011年2月13日
中山海岸から、夕陽に映える愛岩を見る	2011年2月1日
百名ビーチ	2011年1月27日
ヒトデ	2011年1月25日
イノー	2011年1月25日
海岸散策 百名・新原・中山	2011年1月24日
百名ビーチは美しい	2011年1月3日
年末年始寒波に震える海	2011年1月1日
玉城海岸に広がる砂地	2010年12月22日
長年愛してきた新原ビーチの岩	2010年12月13日
読山原	2010年11月27日
読山原からタマグスク・我が家方向を見る	2010年11月27日
「Cafe やぶさち」から丸い太平洋を見る	2010年11月21日

## 気候と災害

49

台風	2016年10月4日
----	------------

佐藤比呂志「巨大地震はなぜ連鎖するのか」NHK 出版 2016 年	2016 年 9 月 25 日
寒さ来襲 寒さで傷んだ花や葉	2016 年 1 月 28 日
PM2.5 の来襲	2015 年 12 月 17 日
今回の台風の被害は軽微だった	2015 年 8 月 26 日
海岸と近隣畑の台風被害	2015 年 7 月 12 日
甕がこわれメダカ全滅 サボテン大木が根元から折れる 台風被害	2015 年 7 月 10 日
鬼頭昭雄「異常気象と地球温暖化」(岩波新書 2015 年)を読む	2015 年 06 月 25 日
5 月前半の台風に驚く	2015 年 5 月 12 日
災害と地形	2014 年 6 月 14 日
気候 「南城を歩く・暮らす」	2014 年 6 月 6 日
エーッ?! 南城市に竜巻?	2013 年 11 月 25 日
台風 23 号 24 号	2013 年 10 月 7 日
台風、期待の雨をもってこず	2013 年 7 月 12 日
まいったまいった、「これでもかこれでもか」と来る台風	2012 年 10 月 1 日
台風の大波	2012 年 6 月 18 日
長い暴風雨時間にうんざりの台風 9 号 大変な後片付けへ	2011 年 8 月 6 日
台風 9 号通過中	2011 年 8 月 5 日
台風の大波	2011 年 6 月 26 日
台風	2011 年 5 月 28 日~6 月 7 日
台風 1 号の大波	2011 年 5 月 11 日

## 動物

70

ガラスヒバア 最近の我が家の動物事情	2016 年 8 月 31 日
池 メダカとグッピー	2016 年 6 月 23 日
庭にホタル	2016 年 5 月 6 日
イソヒヨドリの雛が消えた	2016 年 4 月 28 日
イソヒヨドリ 雛が孵る	2016 年 4 月 24 日
いそひよどりの巣・卵	2016 年 4 月 6 日
足数が少なくても頑張る蜘蛛	2016 年 2 月 27 日
ハブ取り網にかかったハブ	2016 年 1 月 7 日
リュウキュウアサギマダラ	2015 年 11 月 19 日
トンボ	2015 年 9 月 27 日
ホタル	2015 年 8 月 31 日
ベランダで鳩の交尾	2015 年 8 月 19 日
我が庭のメジロの巣に赤ちゃん発見	2015 年 4 月 19 日
渡り鳥 (アカハラダカカサシバか)	2014 年 10 月 17 日
タテハモドキ カバマダラ シロオビアゲハ 蝶の季節	2014 年 9 月 7 日



オタマジャクシとメダカ	2014年9月1日
メダカ池 カダヤシ エンサイ	2014年7月27日
オオジョロウグモ メスとオス	2014年7月16日
イソヒヨドリ	2014年7月11日
アーマン（オカヤドカリ）が海岸へと歩く時期	2014年6月10日
我が庭のオオゴマダラ 幼虫 → さなぎ → 羽化	2014年2月15日
メダカの卵・孵化	2013年10月12日
ミツバチがシッサスの花蜜を吸う	2013年10月11日
グッピーではなくカダヤシ=タップミノーを育てていた ついにメダカ育てへ	2013年8月30日
カマキリがオオジョロウグモを襲って食べる	2013年8月24日
シロチョウ科だろうが、名称不明	2013年8月15日
名称不明 もしかしてヒメホシキコケガ?	2013年8月12日
リュウキュウアサギマダラ	2013年8月10日
シロオビアゲハのメスⅡ型	2013年8月6日
海岸で息途絶えたウミガメ	2013年8月5日
ツマベニチョウ	2013年7月31日
ナガサキアゲハ	2013年7月28日
シロオビアゲハ	2013年7月25日
リュウキュウミスジ	2013年7月23日
アオスジアゲハ	2013年7月20日
オオジョロウグモ メス オス	2013年7月19日
シロオビアゲハメス? (ベニモンアゲハ?) シジミチョウ ツマベニチョウ	2013年7月4日
カバマダラ物語	2013年6月7日
オオゴマダラの薄い金色のさなぎ	2013年5月23日
「動植物シリーズ5 我が家周辺の動物たち」 HPに掲載	2013年5月17日
蝶の氾濫? モンシロチョウ キチョウ ナミエシロチョウ カバマダラ幼虫	2013年5月8日
カバマダラの羽化	2013年4月22日
我が庭のホウライカガミにとまるオオゴマダラ	2013年4月16日
干潮で陸上に取り残された海へび	2013年4月7日
イシカワガエル オオジョロウグモ やんばる学びの森	2011年8月24日
キノボリトカゲ やんばる学びの森	2011年8月22日
名前不明の蝶2種 やんばる学びの森	2011年8月19日
サンダンカで蜜を吸うクロアゲハ (推定)	2011年7月21日

## 植物・森

104

田中淳夫「森と日本人の1500年」平凡社2014年を読む	2015年4月3日
ススキ林	2014年10月17日

田中修『植物はすごい』中公新書2012年を読む	2013年8月2日
今時、はぜ（櫛）の紅葉？！	2013年3月5日
グスクロード公園への階段道からの景観 富里→グスクロード	2012年2月5日
動植物風景4つ クロトン葉もどき 枯れ松伐採 ハーブ ハブ	2012年1月30日
サトウキビとススキのツーショット	2011年12月12日
ヒガンバナ	2011年10月9日
トックリキワタの実を開く ワタがでてくる	2011年3月30日
ハマジンチョウ（佐敷 富祖崎）	2011年1月30日
濱川御嶽と受水走水との中間にある大木	2011年1月7日
濱川御嶽脇のガジマルの気根がつくる空間	2011年1月6日
新年散歩 玉城少年自然の家ウォークラリーコースを歩く	2011年1月1日

## 書籍

113

佐藤寛之「琉球列島のススメ」東海大学出版部 2015年を読む	2016年3月22日
琉球大学の「沖縄の自然は大丈夫？」「琉球列島の自然講座」を読む	2015年7月7日
自然とつきあう本数冊を読む	2014年5月23日
岸由二「流域地図」の作り方 川から地球を考える 筑摩書房2013年を読む	2014年01月21日
「写真集 沖縄田舎暮らし 自然につつまれて」電子本発刊	2012年2月3日
粘菌の衝撃	2011年5月15日
興味深い「自己組織化」 相互作用・協同作用の妙	2011年5月12日

# 空・天体・景 観



## 静かな初日の出 新原ビーチから

2017年1月1日

毎年のことだが、今年も静かな正月の朝がやってきた。今年は、我が家から徒歩20分の新原ビーチで初日の出を迎えた。穏やかな自然光景だ。

帰り道は、国道331を使ったので、知念岬あたりで初日の出を見た車のラッシュ。こんなラッシュを見たことはない。私たちは往復徒歩で、5400歩

我が家に帰ると、100%の静穏さが戻る。そして、毎年のことだが、私のつくるお雑煮でスタート

## 大嫌いなPM2.5が夕陽を美しくする

2016年8月31日

西風が吹いて、大量のPM2.5がやってきている。沖縄の観測値は32.20を越えると、私の眼は気分が悪くなる。喉鼻は少しだけだが、反応している。

でも、副産物として、夕陽を美しくしてくれる。普段よりずっと赤味が増している。PM2.5が多くなる冬場は、こんな写真が多くなるが、夏場では珍しい。

右写真は、摩文仁方向。PM2.5で霞みがかかり、夕陽の赤味を増している。





## 虹

2015年9月27日

25日朝、日の出間もなく、見事な虹が見えた。見事な半円を描く巨大なもので、カメラに収めきれない。

しばらくすると、二重の虹になる。



## 美しい雲 巻雲?

2015年5月17日

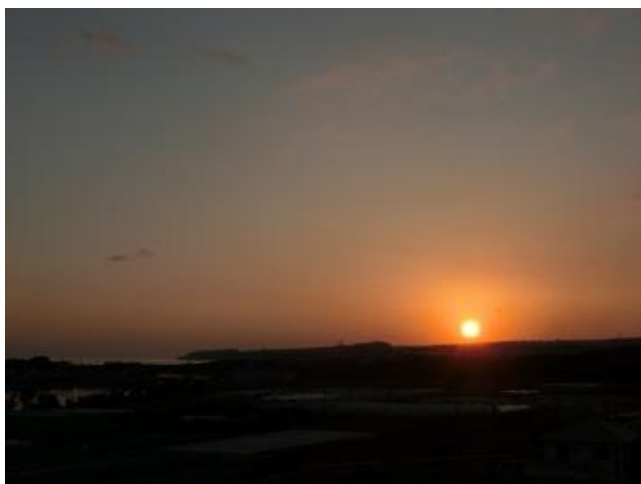
16日夕方の雲。雲の図鑑で調べると、巻雲かなと思う。自信はない。ベランダから撮影 夕方7時ごろ



## 皆既月食

2015年4月4日

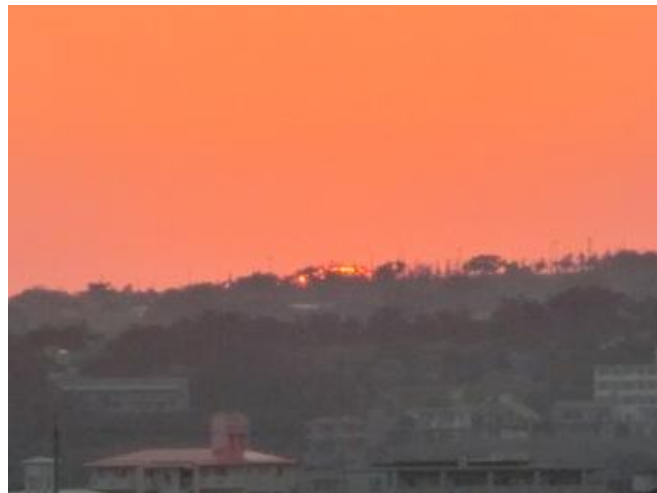
9時ころから20分ほど粘る。雲に隠れたり現れたり。いつもと違って薄い光なので、うまく映らない。屋上の仕切り壁の上にカメラを置いて、たくさん写す。いくつかなんとかとれた。



## 美しい日没の連続写真

2015年1月9日

4日撮影。日没の連続写真。我が家ベランダから。摩文仁の丘よりやや北側の八重瀬あたりに沈む。10分ぐらいの間に撮影した3枚。







## 初日の出

2015年1月1日

写真は、今朝7時40分ごろ、新原ビーチで撮影した初日の出です。日の出時間の7時15分ごろには、ヤハラヅカサあたりに居たのですが、雲に隠されて、日の出をあきらめて帰る途中の新原で、写真のような初日の出に出会うことができました。

## スーパームーン 2014年9月12日



たまたま撮影した月だが、スーパームーンということで、大騒ぎだ。旧の8月15日に我が家屋上から撮影

## 満月

2014年8月13日

月が地球にもっとも接近しているときだそうだ。

11日、16日月を我が家屋上で撮影。デジカメで、月の模様まで撮れたことに満足

10日、15日月を、中山海岸で撮影 下写真



## 空と海の景観

2014年5月24日

景観は、風景だけでなく、空・海そのものの風景がある。

空にはまず太陽。ここでは日中の太陽よりは、朝陽夕陽が美しい。沖縄の信仰では、真上の太陽より、朝夕の太陽に関わるものが多いという話を聞いたことがある。キラキラ照り付ける太陽よりは、地平線・水平線のかなたから聖なる豊かなものをもたらし、また一晩だけ去るものとしての太陽、という存在イメージなのだろう。





右写真は、ヤハラツカサ近くでの初日の出

南城では、東にある太平洋から上がる太陽。そこにニライカナイをイメージする人もいる。私もそうだ。それに久高島を重ねる人もいよう。太陽が沈む西は、私たちににとっては、冬になると摩文仁方向だ。南城の人々のほとんどは、丘に沈むイメージだろう。たとえば、佐敷の人は、大里の丘だろう。豊見城や糸満の丘をイメージする人も多いただろう。東シナ海に沈む本島西海岸の人たちがもつものとは、ずいぶん異なるだろう。

上左は、摩文仁の丘あたりの夕焼けと三日月

朝夕に見られる虹も美しい。上右写真は、我が家屋上から見る二重の虹。 百名の丘あたり。



右は、2012年5月の月食

夜の月星も美しい。西の空は、那覇方面の明るい照明のあおりで見にくいですが、東空は月星がよく見える。玉城



の我が家からは、天の川が、東から天頂にかけてよく見られる。夏の南の空のさそり座は美しい。他府県で見るとは難しいが、ここでは南の正面に見られる。その隣には、南斗六星も見られる。沖縄に住んで初めて知った星座だ。

左写真は、さそり座（見にくい時は、拡大して見てください）

空の景観には、他に雲雨があるが、突然飛び込んでくるのは、飛行物体だ。飛行機・ヘリコプター・ハングライダーなど。





飛行機は、那覇空港への進入路にあたることから、数分間隔、混むときは1分感覚で旅客機を見る。我が家上空から3～4分で離着陸だ。

左写真は、夕焼けと飛行機。右の方にある那覇空港にまもなく着陸だ。

自衛隊機は多くないが、米軍機は結構通る。とくに嘉手納に離着陸するステルス型新型戦闘機は、高度1万メートル近いのに、激しい爆音を伴う。その多くは、太平洋上の訓練区域に通うものようだ。オズプレイもたまに見かける。

ヘリで多いのは、海上保安庁や警察のもので、夏の海岸レジャー者に注意を喚起するものが目につく。

夏になると、ハングライダーが多い。これが結構騒音を出す。時には民家近くに来るので、空からのぞかれているという気分に

なることもある。



右写真は、私たちが住む中山海岸で写した夕焼けと海。

海の景観に入ってくるのは、船だ。奥武島漁港を使う漁船。モズク収穫船。工事用船舶の通行も多い。タンカーやコンテナ船など、大型のものが沖を通るのを見かけることもある。風変わった船が沖に数日「滞在」することもある。

風が強いときには、沖のリーフに砕ける波がすごい。台風の際は、唸り声をとめない、我が家まで聞こえてくる。とくに強いときは、リーフ内側のイノーにまで白波がたつ。

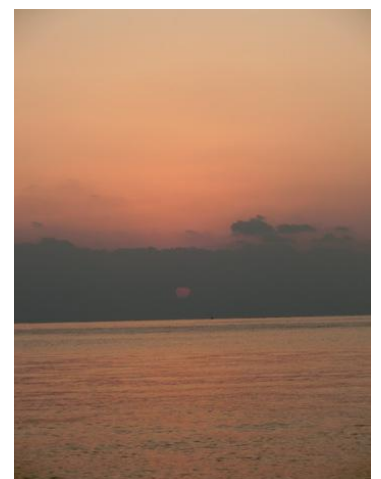
沖を通るクジラの汐吹を見た人がいるそうだが、私は未経験だ。イノーの上に、鳥が飛び交うのを見るのは日常的だ。イノーの魚をとらえているようだ。渡りの季節に、高い空を飛ぶ鳥の団体を見ることもある。

## 初日の出 百名ビーチのヤハラヅカサ近くから

2014年1月1日

年末から早寝早起きになってしまった。昨晚などは大晦日というのに、8時前に就寝した。

早起きして、お雑煮の食事をしてしばらくいろいろとしてから、散歩スター

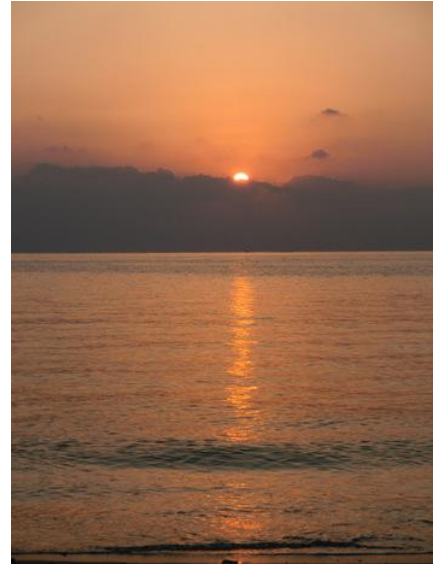




ト。タマグスクにしようか、ヤハラヅカサにしようか、迷ったが、ヤハラヅカサに決める。

地面はまだ濡れているが、星も見えて晴れのようなのだ。

明るんでくる



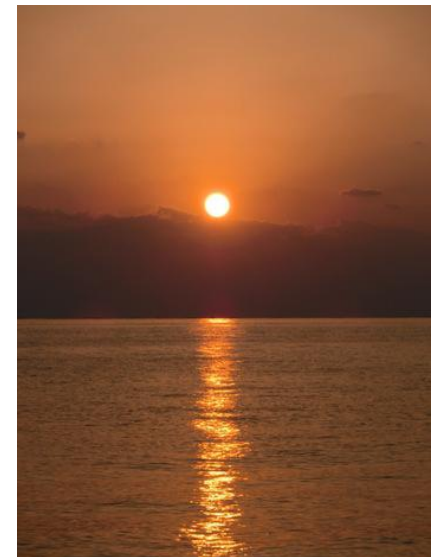
と、水平線には雲があるが、空は快晴なことがわかる。

新原ビーチあたりから、人出がある。百名ビーチに入ると一杯だ。ヤハラヅカサあたりは満員状態。

人がいない所に岩に腰をかけて、日の出を待つ。撮影順に掲載していこう。



車で来られる人ばかりで、私のように歩いてくる人とは出会わなかった。私の万歩計（携帯電話）は、帰宅後8000歩を示した。



## 虹がかかった雲が膨れ上がり、雨が到来

2013年8月22日

長かった日照りにようやく区切りがつき、時々雨があるようになる。21日に来た台風が多少はまともな雨をもたらした。それでも、まだ植物たちは、もっと本格的な雨を待望している。

朝夕の雲に、虹を見る事がある。写真は夕方の雲だ。雲の中に虹を発見。半円形になるほどの虹をみることも、まれにあるが、そんな時に限って、カメラがない。虹の反対側にある太陽が出ていないと、虹は発生しない。なかなか難しいものだ。



この日は、その雲が膨張しながら、我が家に迫ってくる。そしてついには雨をもたらしてくれた。数日前にベランダから撮影した。



## 巨大雲の物語

2013年7月11日

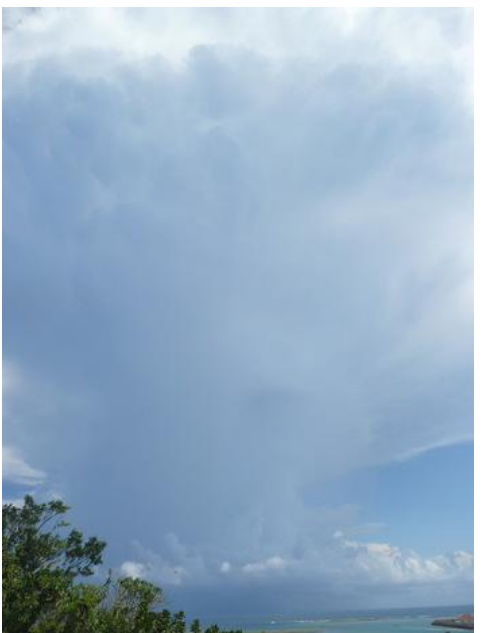
台風襲来前の10日間は快晴続きで、畑庭の水やりが欠かせなかった。1年ぶりのことだ。

暑いのだが、とくに8日は記録的だった。それだけに入道雲が発達した。雨を降らしてくれるのかと期待したが、雨は海上にだけ落ちたようだ。

その雲の「成長ぶり」を写してみた。いずれも、我が家から真南方向だ。もう雨が来ると期待した時。

残念ながら、2キロほど南の海上に降っている気配。

空・雲・の色のコントラストが美しい。







## 七夕 星の撮影に挑戦 さそり座と織女牽牛

2013年7月8日

昨夜、10時過ぎに我が家屋上から撮影。星の撮影には、これまで何度も挑戦してきたが、失敗の連続。今回はなんとか写っている。画面の周囲を暗くして、じっくりとご覧ください。

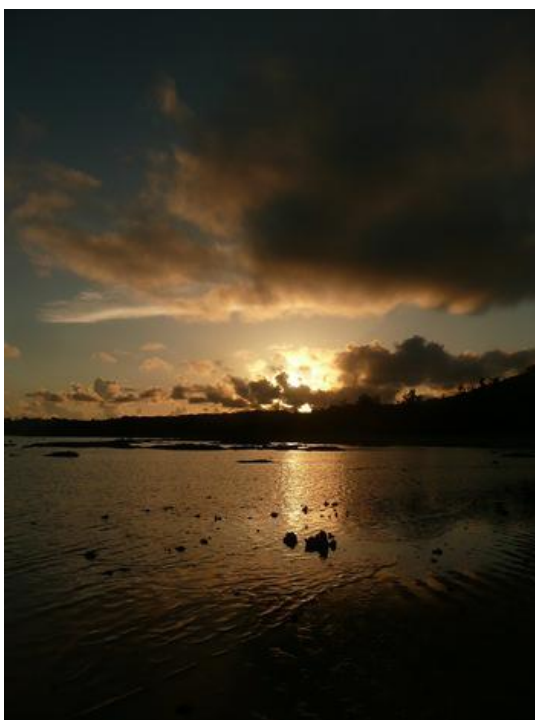
1分間の露出で撮影。拡大すると、星が動いているのが分かる。

上の写真は、さそり座。南の方向。右の、三つ並んだ星が、さそりの頭。その近くの明るい星がアンタレス。その方向に、さそりの尾が曲がって伸びていく。

肉眼だとよく見えるが、写真にするのは難しい。肉眼では見える「天の川」も撮影したが、画像としては無理だ。

下の写真は、我が家からは、空の真上よりで、やや東よりの「夏の大三角」。右がアルタイル（牽牛）、左上がベガ（織女）、その左下がデネブ。「天の川」が帯になって背景を作るが、写真では不鮮明だ。

もう少し修行して、うまく撮りたいと思う。



## イノーからの夕陽

2013年7月5日

このところの晴天続きで、夕陽が美しい。

2日に撮影した写真を掲載しよう。この日は、夕方が干潮なので、海岸から100メートル





ル余り歩いていったイノーから撮影したものだ。

夕焼けも美しい。私のデジカメについている「夕焼モード」で撮影。普通のモードではとれない写真だ。

## 満月の写真

2013年6月29日

このごろは晴れの日が多い。畑の新しい苗には水をまかなくてはならない。この季節の晴れた夜、旧暦3日ごろから20日ごろまでは、月を楽しみ、20日ごろから7日ごろまでは、星を楽しむ。



我が家から西の空は、那覇などの都会の電気で明るい、東の空は暗くて月や星を楽しむには絶好だ。

写真は、数日前、ドラゴンフルーツが開花したころ、東の空に昇り始めた満月を屋上で撮ったものだ。月の模様も写っていた。



あと半月もたつと、旧暦の7日になり、天の川が見える季節だ。でも、星の撮影は、素人の私にはほぼ不能だ。

## 我が家にかかる虹 梅雨の晴れ間の太平洋

2013年5月28日

26日の豊年祭の終了後の夕方、会場の公民館から、我が家の上に虹がかかっているのを見る。こんな光景を見たかったのだが、ようやく実現。中央森のやや右側に白っぽく見えるのが我が家

27日は終日晴れ。いよいよ、私が好きな夏だ。夕方、我が家ベランダから見ると、陽光が雲に反射してイノーを美しく照らしている。





降り続いた雨の後だけに、新鮮な気持ちにさせてくれる。



## ヤハラヅカサにて、初日の出

2013年1月1日

今年は、珍しく日の出が見られた。何回も日の出を見に行くが、せいぜい数分後にやっと見られるのが、ラッキーの方だ。しかし、今回は、日の出数十秒後ぐらいで、雲間からチラッと



顔を出した。超ラッキーだ。

その後も、雲に隠れたり出たりを繰り返しながら、約30分かけて、青空のもとへとすっきりと顔を出した。

1枚目は、まだ、水平面に接している。2枚目は、5分後。3枚

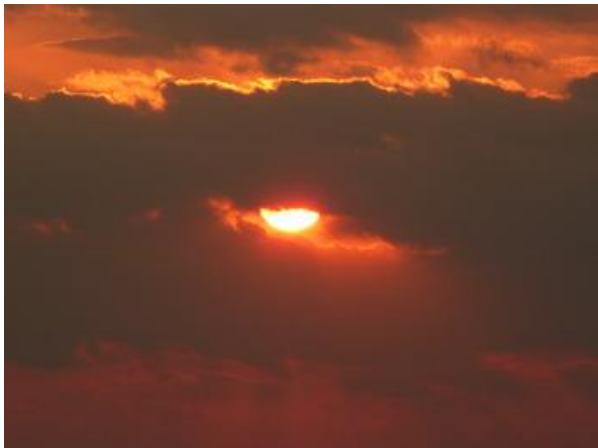


目は10分後。4枚目は15分後。おおよそだが。

5, 6枚目は、日の出後20~30分ぐらいに撮る。今日のヤハラヅカサは人出が多い。いつもは数人ぐらいだが、今日は100人を超すだろう。

こんなにきれいな日の出が見られるのは滅多にないので、感動した人が多いだろう。

祈りをささげる人も多い。近くの奥武島でも同じように美しい日の出が見られたようだ。その3世代家族が、我が家を訪問し







て、楽しく語り遊ぶ。沖縄カルタをする。

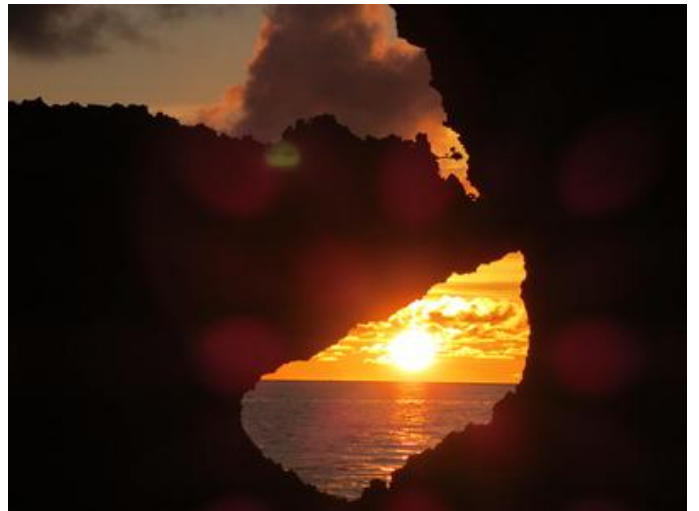
**奥武島龍宮からの朝日** 2012年9月17日



数日前、恵美子は早起きして、奥武島の龍宮に行く。岩の間から、日の出写真が撮れたと興奮。なぜか私のブログで公表することになった。

日の出の時は、雲がかかることがふつうで、写真のように、きれいに撮れることは、1年に何回もあることではない。雲に隠れない夕陽は、もう少し回数が多いと思う。

この場に、私たちはしばしば行く。ニライカナイを実感させる場だ。まさに、ニライカナイから昇る太陽だ。天空にある太陽より、日の出日の入りの太陽を大切にしたいが、沖縄には広くあると言う記述をどこかで読んだことがある。



**沖縄では部分日食** 2012年5月21日

今朝7時15分ごろの撮影。雲が少し出ているのが幸いして、撮影に成功。雲がフィルター役を果たした。撮影後、雲が薄くなり、太陽がまぶしくなって、撮影不能になる。

写真は、いずれも「夕焼けモード」で撮影。場所は、南城市玉城の我が家玄関前





## 夕陽 人影

2012年1月23日

先週、久しぶりに暖かくいい天気  
の時に撮影した写真。

いつもの玉城・中山のイノーから  
撮影。奥武島の向こうに夕陽が沈む  
夕陽が、私の影を長くして、イノ  
一の岩に映す。



## 虹 入道雲 今朝の空

2011年8月29日

大空いっぱいの虹。海の上には、立派な入道雲が、朝日に照らされる。  
4枚いずれも、今朝7時過ぎに、我が家の屋上・仕事部屋ベランダから写す







## タマグスクから我が家を見る 2011年6月29日

我が家は、タマグスクから直線距離でいうと、おそらく1キロもないだろう。毎日見ている。

タマグスクの内側では、危険防止のため、がけ周辺には立ち入りができないようにしてあるので、我が家を見ることは無理と思っていたが、整備され草刈りがなされているので、かえってよく見える。

右写真の中央の、コンクリート打ちっぱなしが我が家だ。

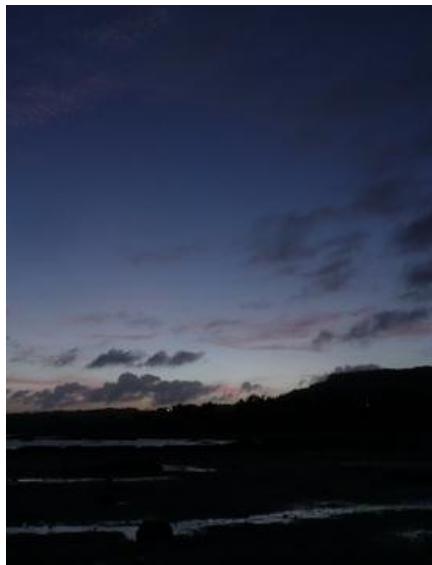
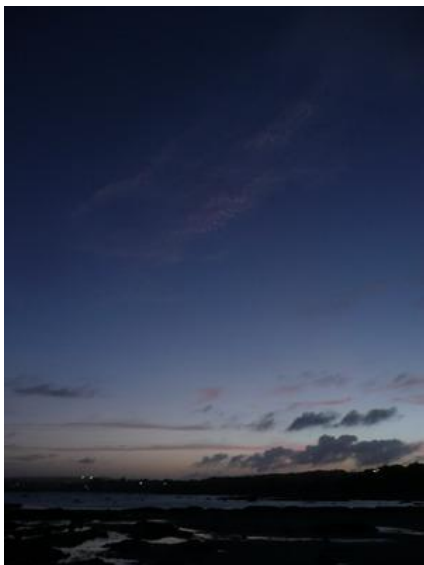
左は、これはズームアップして撮影。

## 夕焼け三景

2011年6月28日

中山海岸から、23日夕方撮影

民泊した修学旅行高校生とともに、夕陽を楽しんだ時だ。





## 奥武島龍宮から みる新原方向 と摩文仁方向

2011年6月25日

24日、民泊高校

生とともに訪問。ここの景観は素晴らしい。隠れたスポット。

上右写真、摩文仁方向 台風の波が激しい。岬が二つ見えるが、後ろの暗色が摩文仁

上左写真は、新原方向



## 夕陽・摩文仁 丘・平和祈念資 料館・風車

2011年6月

17日、日没後、  
我が家ベランダから  
撮影。

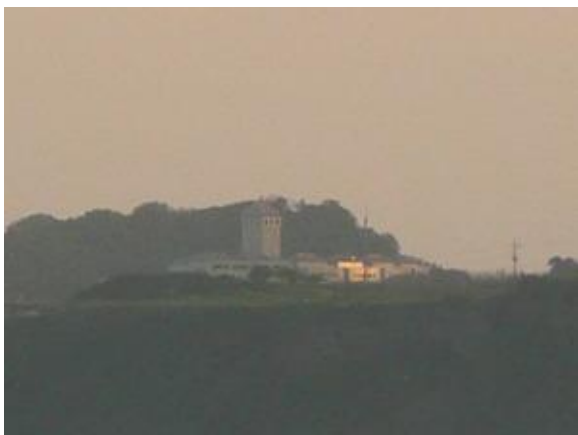


夏至近くなので、中山西側の丘の中腹に太陽は沈む。角度は、西北西。

西南西方向は、摩文仁の丘

摩文仁の丘の中央には平和祈念資料館。ちなみの資料館の屋上展望場から、我が家を見ることができる。

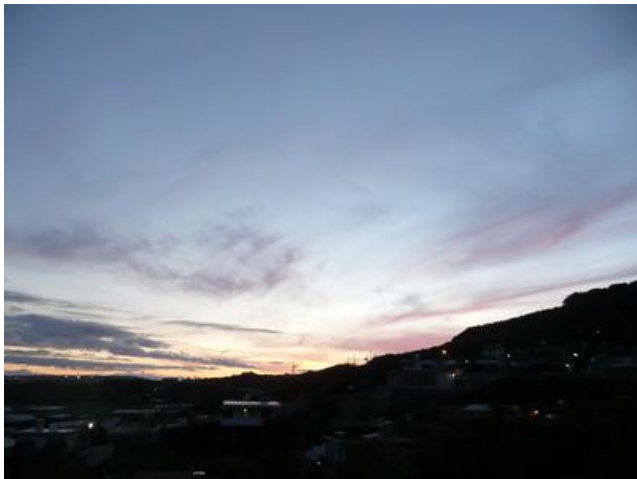
摩文仁の北側に糸満観光農園の風車が見える。この風車が開店すると、近くの摩文仁集落では地デジが見えなくなる、というので、この風車を止めざるを得ないという報道があった。風車の間にある建物は、具志頭のゴルフ場の建物





## 久々の夕焼け 2011年5月21日

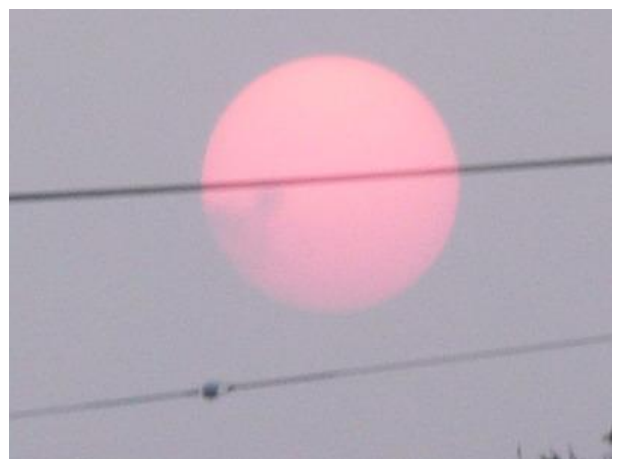
梅雨が一休み。  
本当に久々に夕焼け



日没後10分の19時20分ごろ、我が家3階ベランダから写す。

## 今日の夕陽 2011年4月15日

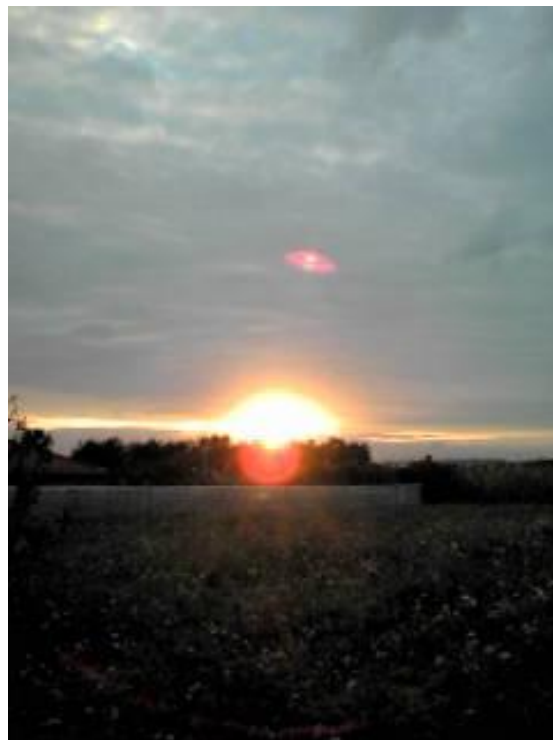
久しぶりの夕陽写真 いつも携帯写真だが、今日はデジカメ撮影。  
薄い霞がかかっている。電線が邪魔だが、丘の向こうに沈むころは、霞が濃くて、うっすらとしか見えないが。



## イノーからの帰り道、畑の中、夕陽に会う

2011年1月25日

今日の散策は、およそ5000歩、1時間足らず。



## ベランダのブーゲンビリアの向こうに夕陽が沈む

2011年1月13日



## 今日の夕陽 2011年1月5日

久しぶりに暖かく晴れる

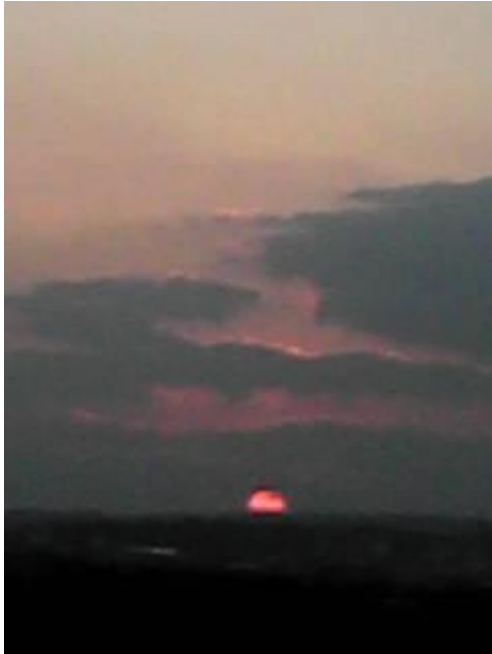
映っている丸い輪は携帯のカメラが作りだした効果

いつもの通り、我が家ベランダからの撮影

暖かい日が続くといいなと思ってしまうこのごろだ







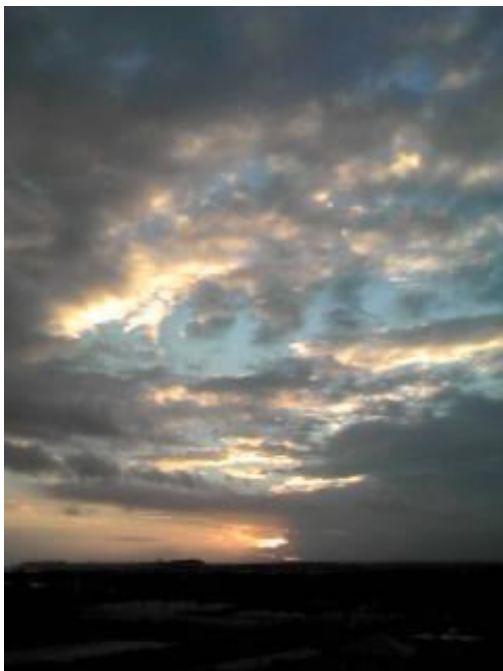
## 冬至の日の入り 2010年12月22日

我が家、屋上より撮影 ちょっと幻想的  
私の後ろのタマグスクで岩門を通して見ている人もいるだろう

## 日没後20分の夕焼け 摩文仁の丘あたり

2010年12月6日

中央やや左 雲と夕焼けの境目あたりの  
明かりは、那覇空港を飛び立った飛行機  
左下は奥武島



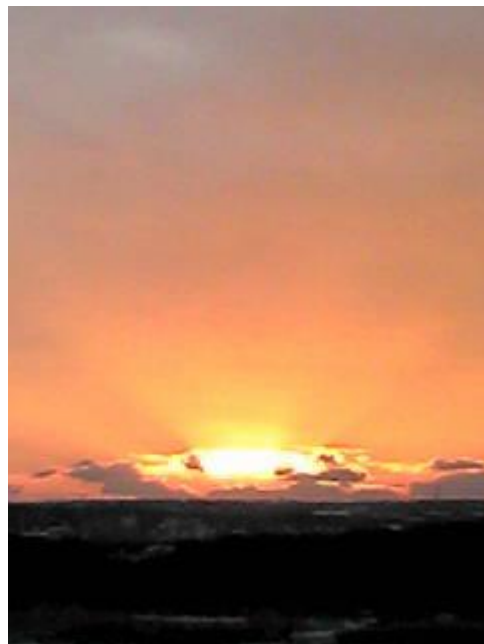
## 日没数分前...赤・青・白・灰・黒の彩り豊か

2010年12月2日

我が家ベランダから写す

今日の夕焼け 2010年11月17日

日没二分後 ベランダから写す



今日の夕陽 2010年11月9日

我が家ベランダから。 時間順に掲載する

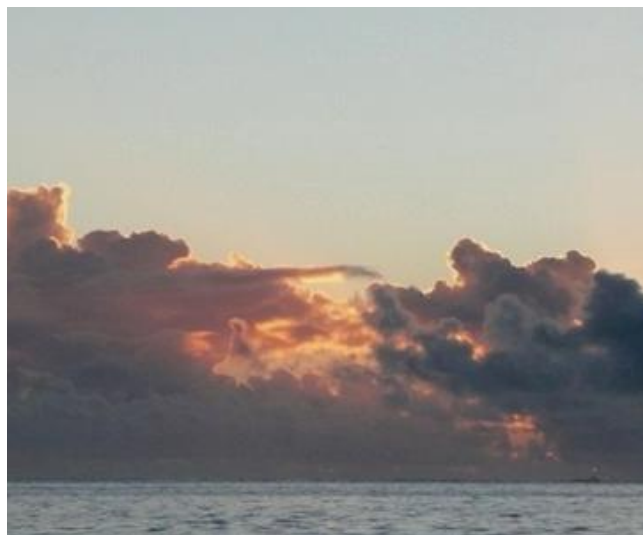


## 日出連写 2010年10月25日

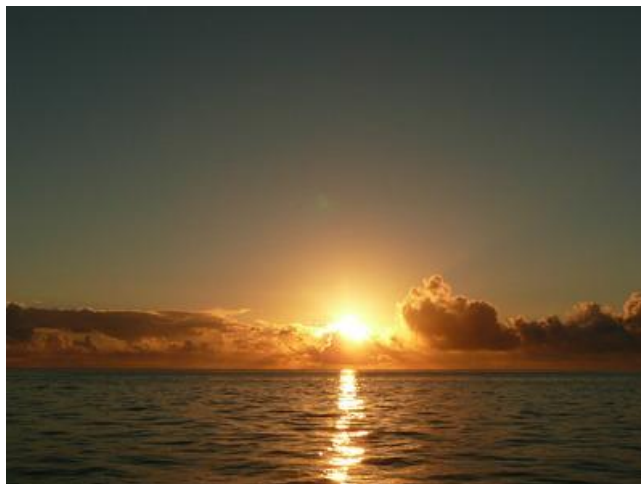
撮影は、百名ビーチの、新原ビーチ寄りの所

まず日出シーン 朝6時30分過ぎ

上の空は雲がないが、水平線近くは雲がおおっている。その雲の色・形がドラマチックだ。



上へ伸びる陰。 恵美子は天使の階段だという。



ついに、雲の上に、太陽が出る。 反対側。沈みかける  
月が、朝日に照らされる。

朝日に照らされる新原ビーチ

長く伸びる私の影





# 海・海岸

## ヤハラヅカサ散策 蟹と蛙そっくりの珊瑚石

2014年5月11日

11日午前、二人でヤハラヅカサ往復散策1万歩。大雨の後なので、大量の水が海岸へ。特に受水走水からの水量が多く、海岸でも、渡れないほどだ。素足になった恵美子が、私を「おんぶ」して渡る。こんな経験は奇跡めく。

海岸に、蛙そっくりの珊瑚の石がありびっくり。



大きな蟹が動き回る。逃げようとはしない。時々体を震わせている。産卵行動なのか、よくわからない。



## ヤハラヅカサ往復8000歩散策

2014年2月6日

しばしば訪れるヤハラヅカサを通る長距離散策だ。8000歩で、私の歩幅を70センチとすると、5.6キロのコースだ。

我が家→国道331号線→百名→Cafeシーサイド横(写真2)・玉城第二浄水場・崖墓(写真3)横→濱川御嶽・潮花御嶽(写真4)(写真5)→ヤハラヅカサ(写真1)→百名ビーチ(写真6, 7, 8)→新原ビーチ(写真9)→百名伽藍横・浜辺の茶屋横(写真10, 11)→サチバル→字玉城(写真12)→我が家

ヤハラヅカサあたりまでが4000歩で、ほぼ中間地点だ。夕方5時15分ごろスタートで、6時過ぎに帰宅。5時まで雨だったが、急に晴れて素晴らしい夕陽に出会えた散策だった。



#### 写真1 (右)

夕陽に照らされるヤハラヅカサ。 右方が、その石標。左手奥に久高島が見える。

直前まで雨だったので、出会う人はほとんどいない。観光のカップルが一组だけ。雨上がりで美しくなった海辺。静穏の雰囲気。

#### 写真2 (中左)

我が家近くの国道331号線を東に上っていく。坂上が百名入り口信号。百名獅子、大型マンションなどがある。そこを下っていくと、信号。右手に行くと、写真2の所に来る。ここまでが我が家から2500歩。写真正



面が Cafe シーサイドで、右の道にいくと、受水走水散策路入り口をとおって、豪邸へ。左の道を通っていくと濱川御嶽に行く。



#### 写真3 (中右)

この道は、近年舗装されて歩きやすい。以前は、草ぼうぼうで、今にもハブに出会うのではないかと心配する道。おどろおどろしささえ感じた時も。

まず左手に玉城第二浄水場の建物を見る。それを越えると、左手の崖に墓が並ぶ。直角の傾斜の崖で、その上に百名集落がある。このあたりに貝塚があるはずだが、私には正確にはわからない。このあたりは、2000年以上の歴史を感じさせる。



しばらく行くと、藪薩御嶽の真下に出る。「知る人ぞ知る」の御嶽。カフェヤブサチの横から入っていく。その御嶽を下から眺める。

しばし行くと、急に見晴らしがきいて、久高が見える。そのコンクリート建物には、いろいろと歴史がある。35年ほど前、私の大学授業で合宿をしたことがある。

#### 写真4 (左)

少し行くと、濱川御嶽・潮花御嶽の双方が見えるところに



着く。ここへは、何回来たことか。このブログでも何度となく書いたので、今回は説明を省く。

写真5（右）

写真4の左手に降りていくと、ヤハラツカサの海岸に出る。降りる石段にたって撮った写真。新しい世界が開けてくる印象。



写真6（左）

百名ビーチ 西方を見る

写真7（右）

百名ビーチから、西の丘あたりを見る。新原の上の集落があるところで、写っているのは豪邸。

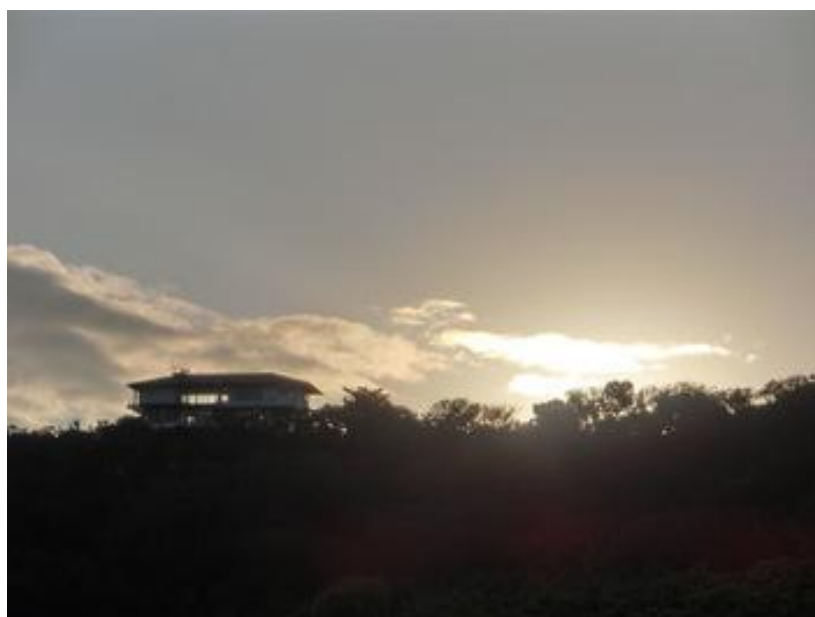




写真8（左）

百名ビーチに流れ着いたヤシの実。東方向を写す

写真9（右）

新原ビーチの西端の巨岩の間で、私たちはよく泳いだ。ここ10年というだけでなく、30、40年前も家族連れで年1回は、ここで泳いだ。



写真10（左）

散策は、百名ビーチから新原ビーチを通り、百名伽藍・浜辺の茶屋の横を通って進む。このあたりは週に一回は散策する。今回は見事な夕陽に出会う。

### 写真11 (右)

私がこよなく愛する「鳥のくちばし岩（私の勝手な命名）」が左に見える。いまごろの夕陽は、糸満観光農園あたりに沈む。その左側が摩文仁の丘だ。



### 写真12 (左)

さちばるをとおって、字玉城の浄水場に近くなると、我が中山集落の家々が見え始める。正面手前の森の中に我が家がある。ここから1100歩で、我が家に帰りつく。

## 佐敷干潟風景

2014年2月4日

2日のシュガーホールでのミニシンポ後の夕方、佐敷海岸を歩いた。シュガーホール裏手から始まって、富祖崎方向へ少しと、新開入り口までの往復。合計4500歩、距離にして3キロ余り。

佐敷干潟、そして、中城湾、知念半島などがよく見える。いつも歩く玉城海岸とは全く異なる風景。

今回は護岸の上を歩いたが、いつか靴服装の準備をして海岸や干潟にまで降りてみたいと思う。だが、







ゴミの散乱が激しいのが問題。干潟なので、ごみ取りが難しいのか、中城湾のゴミが多いのか、玉城周辺のゴミも多いと思っていたが、その数倍ある。

景色だけでなく、雲混じりの空と丘と海とのコントラストの強い景観が良かった。

写真1（前ページ） 富祖崎方向へ歩いたところにある水門近くから写す。新里の丘が美しく見える。

写真2（左） シュガーホール裏から、シュガーホールを写す。いつも見ているホールとは逆の角度だ。

写真3（中左） 干潟全景 佐敷中学校裏手から写す

写真4（中右） 佐敷中裏手のひるぎ林



写真5（下左） 兼久海岸から、景観の全景を写す。いつも卓球をしている佐敷スポレクセンターも見える。

写真6（下右） 新開入り口の橋の下には、ひるぎ林ができています。



## 沖縄の自然を守り育てるマングローブEEクラブ

2014年1月25日

21日、うるま市の学童クラブ指導員のワークショップを終えた後、40年来の友人である平川夫妻を訪ねた。昼食をともにしながら歓談した。平川良栄さんは、コンピュータを使って「彫刻」作成にいそしんでおられる。沖展常連の高度な芸術表現をなさっておられる。

節子さんは、長年のマングローブを中心とする沖縄の自然を守り育てる活動を、現在NPOマングローブEEクラブ代表として、ますます意気軒高として展開しておられる。泡瀬の洲崎や宮城島などを中心にして、小学生から高齢者までの超たくさんの方のボランティアとともに活動しておられる。他府県からも大学生など多くの方々の活動参加があるとのこと。

自宅を事務所にしておられるが、たくさんの活動グッズが所狭しと置かれている。

今後ますますのご活躍を祈念したい。

我が玉城中山河口に自生している7～8本のマングローブの幼

木が定着するかどうか、思わず関心を広げてしまった。



## マングローブが7本、中山海岸に根付いている

2013年10月28日

中山海岸には、時々マングローブが育つことがある。すぐ近くの志堅原海岸のマングローブ林から流れ着いた種が育つのだろう。しかし、いつもは、しばらくして消える。

しかし、今、合計7本が育っている。理由はわからない。まだ定着したという感じではない。ここにマングローブ林ができることはいいことかどうか、私にはよくわからない。







でも、少しぐらいはそんな光景があるのもいいと思う。

このあたりは、干潮の時は干潟風になる。先日、トントンミーが何匹も飛び跳ねるのを見た。いつか写真に収めたいと思う。

左写真は、マングローブあたりから、我が家とタマグスクを見る。山のとっぺんがタマグスクで、中央に縦長に写っている建物が我が家。

## 私の散策路 海岸・イノーコース

2013年3月19、21日

私は、週2～4回ほど近隣を歩く。一番多いのが海岸だ。干潮時には、イノーを歩く。

万歩計機能のある私の携帯で測ると、海岸だけコースだと、家→中山海岸→玉城(さちばる)海岸→家で、3500歩。イノーコースになると5000歩前後だ。我が家から海岸までは、1000歩足らずだ。海岸からイノーの先までは、片道800歩というところだ。

海岸の護岸の上に遊歩道があるが、そこはめったに使わない。満潮時であれば、海岸の砂地、干潮であれば、イノーの岩場、干潟などを歩く。だから、結構足場が悪いので、運動効果は高いだろう。



上の写真は、中山海岸の干潮時に出たイノーの岩の上から、干上がったイノーと陸上を写したもの。海岸まで100メートル近くある場所だ。

海岸に出る場所は、中山バス停近くの集落センター横を通る道路を、海岸に向けてまっすぐ行って突き当たる個所だ。左写真。



そこから海岸へ出たところが右の写真だ。

ここに、車を止めて、釣りなどの海岸遊びをする人が時々いる。

この中山海岸から東に向かって1キロ近く歩くと、隣字の玉城の海岸にでる。別名さちぼる。山の茶屋、浜辺の茶屋があるところだ。

岩の間に、珊瑚のカケラが一杯のところや砂地、そして干潮になっても水があって、魚・ひとで・なまこ・

しゃこなどの動物や藻などがいる浅瀬がある。岩の上や水中にはアーサなどの藻は多い。干潮の時と満潮の時では全く光景が異なる。



海岸から数百メートルの幅で、えんえんと広がるイノーだ。ずっといけば、知念岬まで行きそうだ。新原ビーチ、百名ビーチ、ヤハラヅカサ、アージ島までは行ったことがある。

岩の窪みに、写真のようにマングローブ（ひるぎ）が伸びていることがある。奥武橋の近くにある小さな林から種が流れ着いたのだろう。ここは、グスクロードあたりからの川の河口付近なのだ。淡水と塩水が混ざる汽水域が成長の場だ。しかし、このマングローブは定着せず、このくらいの高さ以上になったり、群落になったりする例を見たことがない。生育環境が整っていないのだろう。

沖に近づいていくと、ナマコが一杯いる。左下写真は、お食事中だ。最近、これを採取する人がいて、漁業権が問題になっているそうだ。確かに、ここ数年で半分以下になっている。

イノーの先まで行くと、モズクを育てる網の近くまで来る（右下写真）。4月になると、モズクの季節になる。

時々、網からこぼれてくるものもある。隣の新原では、大量に育てており、4月末から5月初めに取りに来る人が何百といる。そういう私たちも取りに行く。昨年とったものが、いまだに我が食卓に出るほど大漁だった。



## 海風景 奥武島旧正の大漁旗 海岸に繁殖するツルナ

2012年1月26日

25日午前、いつもの海岸散歩。

満潮時刻。海が微妙に美しい。右写真は、中山海岸から南向きを見たもの。

東南東寄りに向きを変えると、逆光気味の光で、海岸の岩がいつもとは異なる美しさを見せる（中左写真）。



対岸の奥武島漁港は、旧正月の大漁旗を掲げている。



海岸の護岸のなかに、ツルナが繁殖。おいしそう。

取ってきて食する。美味しい。



時々スーパーでも売っている。我が畑でも育てたことがあるが、粘土質なので上手くいかない。砂質のここが生育にはよさそうだ。



## いろいろな船が通る

2012年1月4日

海方向がよく見える我が仕事部屋からは、  
いろいろな船が写真にとれる。

年末年始にとった写真を紹介しよう。

この船は、なぜか数日間、沖に停泊していた。どんな船か、素人の私には不明。

中の2枚は、奥武島の漁船。帰港寸前だ。  
漁獲はどうだったろうか。



大型の貨物船。これよりずっと大きいタンカーやコンテナ船を見かけることもある。  
貨物船のような感じ。土砂とか運ぶのかな。素人の私には不明。





## 中山海岸、きれいになる

2011年8月27日



久しぶりの海岸散歩。

27日、たくさんの方々の参加による大規模な海岸清掃が行われた。その成果が、見事だ。

ゴミと雑草、雑木に満ちていた海岸が変貌した。

加えて、今年の台風は、モクマオウなどの防風林をたくさん倒した。全滅とまで言わないとしても、それに近い状態だ。

海岸堤の散策路が、見通しが全く良くなる。すっきりし過ぎ、とさえ思える。

防風防潮効果が果たせるほどに回復するには、どれ

くらいの時間が必要なのだろうか。

おりしも、次の台風接近で、波が高くなり始めた。







## 私が大好きな岩 「鳥のくちばし岩」

2011年5月18日

私たちがしばしば行く海岸から100メートルぐらいの所にある岩  
横から見ると、鳥のくちばしに見える。だから、私は勝手に「鳥のくちばし岩」と命名した。  
専門家の説明によると、最初はきのこ状だったが、倒れて、こういう形になったそうだ。

## 春の海 中山海岸 鳥と海藻

2011年2月23日

21日の午前に撮影。

春めいてきた。

この鳥は、ここに常駐している感じだ。魚  
を取っているようだ。

アーサはまだ少ないが、海藻の緑色がぐん  
ぐん濃くなっている。左写真



## 中山海岸の変化...ヒルギの幼木があちこちに

2011年2月13日

一昨年、昨年と一本ずつ見つけたが、その後育っていない。  
しかし、今年は10本近くの幼木がある。

川や排水溝の海岸出口の、汽水域あたりである。

砂地が広がったせい、今年の雨量が特別に多いせい、理由はわからない。

写真のものは、岩の穴から顔を出している。

中山海岸の数年後はどうなっているだろうか。マングローブ林ができかかるのか、それとも砂地が広がって、海辺遊びをする人が増えてくるのか。



## 中山海岸の変化 ...砂地が広がった

2011年2月13日

この海岸付き合って7年目。変化を感じている。ゴミ拾い活動がすすんで、きれいになっている事が最大だが、もう一つ、砂が多くなっている事がある。

3, 4年前までは、字玉城海岸あたりの砂の増加がめだったが、最近では中山海岸あたりまで砂地が広がってきている。



## 中山海岸から、夕陽に映える愛岩を見る

2011年2月1日

愛岩とは、鳥のくちばしに似た岩で玉城海岸にある



百名ビーチ 2011年1月27日

私たちが行く時、いつも人はわずか  
この日は、海岸から少し離れたところで  
読書する人が一人

ヒトデ

2011年1月25日

イノーの散策で出会う。  
ごく普通に見られる。



イノー

2011年1月25日

そろそろアーサの季節も近づく  
右はイノーの先端から写す







このイノーは沖縄のなかでも有名な大きさだ。

先端まで 1000 歩ぐらいで、20 分かかる。

今日は私たち以外は一人だけ見かけた。

旧 3 月 3 日の浜下りの時は、何百人の人出になる。

左写真は、イノーから摩文仁を見る。日没 40 分前

右写真は、イノーからサチバルを見る



## 海岸散策 百名・新原・中山

2011 年 1 月 24 日

新原ビーチと百名ビーチの境界の巨岩。  
新原ビーチ側から撮影。

この岩も私が好きな岩。下の岩に巨岩がのっかかっている



新原ビーチのこのあたりとの付き合いは、38 年になる。家族でよく泳いだ。

土曜の朝、海岸整備のため、自動車で砂をならしている。

海岸にある小屋は、ガラスボート待合場所だ。



我が中山の海岸である。  
本当にきれいになった。  
私たちがここに住み始めたころは、ごみの山に近かった。

私たちも含めて、多くの人のごみ集めした結果、いまでは大変少ない。

今はいい散歩コースになっている。  
そのうち、子どもたちも遊び始めるだろう。



玉城海岸からサチバルを見る

午前10時の少し前  
太陽がサチバルの上あたり。

サチバルとは、先の原という意味。岬の先だからだ。  
逆光が美しさをつくる

字中山から東に行くと、字玉城、そして字新原

その字玉城の海岸から50メートルのところにある岩

角度によっては、鳥のくちばしに見える。  
何十年か前に、傾いた岩だ。  
写真は、大潮満潮時間だ。





## 百名ビーチは美しい

2011年1月3日

### 藪薩の浦

建物は、ウルトラマン製作で著名な方が以前使っておられた。32, 33年前、私の授業で合宿したところでもある。

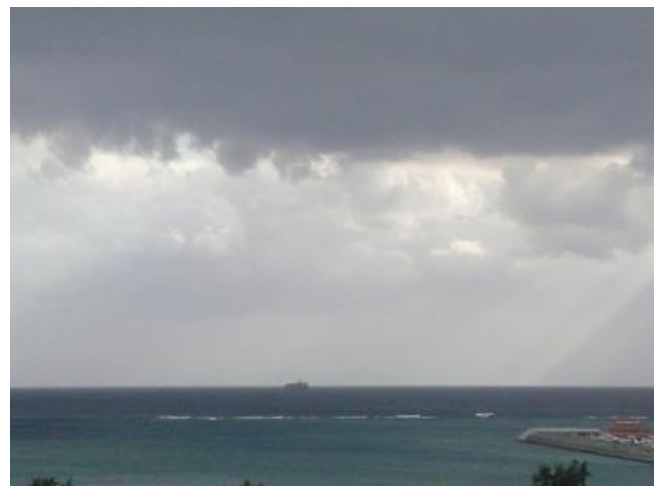
手前がヤハラヅカサ 見える島は、アーチとアドキ



百名ビーチ全景 静か  
私たちより少し先輩の夫妻と出会う。

## 年末年始寒波に震える海

2011年1月1日



この年末年始寒波は、すさまじい。ベランダの温度計も 10 度を切っている。海も寒い。寒い雲からかすかな光がさしている光景は、とても亜熱帯ではない。日本海の海を感じさえするというと、少々おおげさか。でもそんな風に言いたくなる。

我が家ベランダからの写真だ。

沖には、北西の風をさけるためか、船が 30 日から碇泊している。

沖縄ではコートを着ることは、一年にあるかなしかだが、あまりにも寒くて室内でコートを着る始末だ。

## 玉城海岸に広がる砂地 2010 年 12 月 22 日

数年前にはなかった砂地。潮流が運んできた砂。あと数年すると、見事なビーチになることを期待したい。

後ろの丘の一番高いところがタマグスク



## 長年愛してきた新原ビーチの岩

2010 年 12 月 13 日

新原ビーチには 1970 年代前半から頻繁に訪れているので、長い付き合いだ





## 読山原

2010年11月27日

左写真は、読山原から奥武を見る

右は読山原海岸...半島芸術祭武村石材社長さんの案内

奥武島の西

NPO で環境保全に努めておられる



## 読山原からタマグスク・我が家方向を見る

2010年11月27日

この後、美しい石材作品を見せていただく  
興味をそそられる



## 「Cafe やぶさち」から丸い太平洋を見る

2010年11月21日

半島芸術祭 in 南城から帰り道、久しぶりに立ち寄る。  
海の中、やや右上からやや右下へと、緑がやや濃くなっている  
にが、サンゴ礁の端から陸へとつなぐ水路だ。1000年以上昔  
から使われている。当時としては大型の船が入れるので、交易に  
使われたようだ。おもしろにも歌われている。陸に接するあたりが  
ヤハラヅカサで、アマミキヨ上陸地点という伝承がある。

写真下側の森近くに浜川御嶽がある。



# 気候と災害

## 台風

2016年10月4日

今回の台風は、特別警報が出され、905ヘクトパスカルを記録するほどのものだった。しかし、暴風半径が100<sup>キ</sup>前後で小さくまとまったものだった。そのためか、中心から200<sup>キ</sup>近く離れた、このあたりでは、強い台風の印象を与えなかった。

ただ、波は大きかった。海岸の排水口は、完全に押し寄せられた波で封鎖され、そこに注ぐ川はせき止められてしまっている。幸い、雨量は少なく、河口付近にたまっている状態だ。

写真は、砂で埋まった海岸の排水口とリーフに砕ける大波



我が家も、ちょっと枝が折れたぐらいだ。我が家の東側の森が、防風林の役割を果たしたことも大きい。風で飛ばされた枝葉の片づけは大変だが、そして、数日後に表面化する潮風による塩害が予測される。植物の枝葉を水で洗う必要があるが、いつもほっておいて、自然に任せている。その結果、数日後、葉っぱが大量に落ちる。仕方がないと思っている。

佐藤比呂志「巨大地震はなぜ連鎖するのか」NHK出版2016年 2016年9月25日

店頭で見つけた最新刊書。地質学から地震研究にアプローチするものだが、こうした書は、素人には難しすぎることが多い。しかし、本書は、理解できる範囲内であり、素人にも、地震をめぐる日本の現状を知るうえで有益だ。

まず、本の帯に書かれたもので、本書の概要を紹介しておこう。

- ・熊本地震は想定内だった
- ・日本列島が過去に受けた古傷、それが活断層
- ・活断層は日本国内で約2000見ついている
- ・プレートの沈み込みが内陸地震を引き起こす
- ・内陸地震の活発化が意味することとは？
- ・南海トラフ巨大地震の災害群にどう備えるか

ここ数十年で、地震研究は飛躍的進歩を遂げたようだ。地震予知もかなり進んできた。地震可能性については、かなり鮮明になってきている。たとえばいうと、数十年前の天気予報レベルに近づいてきただろうか。

今、取り立てて怖いのは南海トラフが引き起こす地震であることは、多くの人の共通認識になっているだろう。それについて、次のように書かれている。

「歴史記録に基づけば、南海トラフの巨大地震の発生は、短い感覚では90年程度と見られている。昭和南海地震が1946年だから、2036年頃に相当するが、そのころは世界にとっても難しい時期にさしかかっているだろう。

というのは、今後地球温暖化に伴って、その頃は極端な気候となり、農産物資源が不安定化するとみられる。近年の温暖化の影響で、豪雨など、天候がますます暴力的になっている。

また、2050年に向けて、地球上でさらに20億人程度の人口増加が予想されている。それに対して、日本は少子高齢化社会への対応など、さまざまな対応が要請される時期である。南海トラフ巨大地震は、こうした困難な状況の中で発生するかもしれない。問題は、何度も繰り返すが、この巨人地震まで引き続く内陸地震への対応も必要なことである。」 p179

今、防災対策が各地で進んでいる。しかし、多くは、緊急対策的であり、構造的に地震に強いありようを作る方向とは逆方向のものが結構ある。原発はその最たるものだろう。また、東北震災と同規模のものが起るとすれば、東京から九州の太平洋までの、現在の人口と産業の集中地に災害が集中するであろうから、被害は、2けた違いのものになるだろう。

それは、ここ百年の日本のありようの大転換を求めるものだろう。そして、沖縄もその埒外にあるわけではない。

自然科学系の本は、年に数冊も読まないが、刺激が多く新鮮な読書をもたらしてくれる。

## 寒さ来襲 寒さで傷んだ花や葉

2016年1月28日

23日夕方～26日朝と、とんでもない寒さがやってきた。私は通算すると30年ぐらいの沖縄生活になるが、初体験だ。

我が家あたりでは、6度近くまでさがった。自動車の車外温度計の計測だ。窓外の温度計は7度近くだった。私が住む中山は南斜面で海に近く、北風がさえぎられるので、まだいい方だと思う。知念半島のてっぺんにあり

標高100～150メートルほどで、北風をまともに受ける親慶原やつきしろでは、みぞれを目撃した人もいるとのことだ。

気象観測で登場する糸数の測定地点は、糸数城址の隣の一番高いところで風をまともに受けるところだから、もっと低い気温が出る。新聞によると、4.1度と観測史上最低だったらしい。我が家と比べて、2～3度低い結果が出る。

私の心配は、庭畑の植物が寒さにやられないかどうかにあった。やられたものを並べよう。

開花しはじめたマッサンゲアナの花  
フウリンブッソウゲの花と葉（右写真 左中写真）  
バジルの葉  
タイワンレンギョウの葉



寒い中、海岸やイノーを散策した。魚が気絶して浮いているというニュースがあったからだが、目撃できなかった。我が家のメダカは水草の陰でじっとしているので、全員無事かどうかは、まだ確認できない。

寒さをくぐらないと、開花しないという桜が、暖冬の今年は遅かったが、これで一気に開花しそうだ。室内も寒いので、エアコンの暖房機能が全開した。衣服も10年以上前に本土で着たものが大活躍だ。

中右写真は、我が家から見たタマグスク方向。空は雪雲だが、ここでは雪やみぞれになるほどまでには冷えなかったというべきだろう。

## PM2.5の来襲

2015年12月17日

16日から、寒さとともに、大量のPM2.5が来襲している。





私は、呼吸器が弱いので、敏感だ。すぐに感知する。屋外に出る時は、マスクが必須だ。眼も異常を感知するが、防ぐ眼鏡は持っていない。いずれ必要になるかもしれない。

ということで、那覇に出かけるのを延期した。PM2.5だけでなく、排気ガスもひどいからだ。

私が沖縄が好きな理由の一つは空気のきれいさにあるが、大陸から来るPM2.5はどうしようもない。

毎日天気情報のPM2.5情報を見ている。治まったら、那覇に出かけるつもりだ。

天気情報のデータ。16日14時では、41「やや少ない」となっている。私には、「かなり多い」と感じられる。中国大陸では数百という数値も出ているそうだが、呼吸器が弱い人にとっては致命的になる感じだ。

高度経済成長期の1960年代に名古屋・東京暮らしをしていた私は、その時の大気汚染で、呼吸器をかなり痛めたようだ。同じことが、今大陸で進行している。

写真は、我が家から、PM2.5で煙る摩文仁方向を見る(16日撮影)。暗くなっている。これで「やや少ない」といえるのだろうか。基準がおかしいと思う。

その後の数値は16日17時は50、17日7時21、15時14である。ようやく治まってきた感じだ。明日は那覇に出かけられそうだ。

## 今回の台風の被害は軽微だった

2015年8月26日

24日来襲した台風は、昼間中、暴風警報が出ていた割には、被害は少なかった。八重山は大変だったようだ。近くの糸数のアメダスのデータを見ても、風速は秒速20メートルを越えていないようだし、雨量も数十ミリだ。



主に南方向からの風だったので、我が家は隣の森がさえぎってくれた。影響が大きかったのは、3階ベランダの日除け用の千年木だ。6本折れ、葉は、3~4割折れたりちぎれたりした。(写真)

このくらいの風速なのに、ちょっと想定外だった。今回は、ロープをかけたりの特別の対策をしないままだった。強い風には、折れて対応するのが千年木の対策なのかもしれない。

庭畑では、オクラが傾いたぐらいだった。落ち枝葉も少ない。このくらいの風では、どうってことは



ない、と植物たちは語っているようだ。

後片付けは、数時間の作業量で済みそうだから、2～3日の通常作業の枠内ですみそう。ただ毎回気をつけなくてはならないことがある。潮風にやられた枝葉が、襲来後3～4日してから大量に落ちることだ。

## 海岸と近隣畑の台風被害

2015年7月12日

台風は風向きによって、被害程度が大きく異なる。今回は、東北東から南東からの風が強かった。だから、東風を受ける家は大きな被害。我が家は西風に弱い、東側に大きな森があるから、今回の被害は小さい。

農家の畑は、どの方向でも被害は大きい。近隣の農家では、サトウキビやオクラが大きな被害を受けている。

倒れたオクラ

倒れたバナナ(近隣の畑)。我が畑のバナナは大丈夫だった







前ページ下左は、海岸沿い道路から見た、我が中山集落と畑。サトウキビが倒伏している。正面の一番高いのがタマグスク。タマグスクの真下の森の中にやや右にあるように見えるのが我が家。

海岸では、砂がかなり飛ばされ、防波堤の上の道を覆っている。(前ページ下右写真)



初めて見たのは、ナマコがたくさん打ち上げられていること。(上左写真)

台風の間風や波をもものともせず、マングローブの幼木が頑張っている。5年ぐらい前、8～9本が中山海岸の岩の上から芽を出した。種が流れ着いたのだろう。4本が今でも生きている。写真は、そのなかで一番大きいもの。生き残れるかどうかは微妙だ。(上右写真)

## 甕がこわれメダカ全滅 サボテン大木が根元から折れる 台風被害

2015年7月10日



今回の台風は、予想がいろいろと外れる。

まずデカイ台風直撃との予想が、もしかすると暴風圏内に入らないかもしれない予想に変化。

しかし、勢力が拡大し、進行方向が本島よりになり、暴風圏内に入る。しかも、なかなか抜けない。結局丸24時間近く入っていた。我が家にとって幸いなのは、東寄りの風が中心で、我が家の東にある森が防風林の役目を果たしてくれたことだ。しかし、昨年まで続いた巨大台風で、森の木がかなり損なわれている。今回の風で、さらにスケスケになってしまった。

最大の被害は、手すりにかけてあったブイア



ートが落ちて、直下にあったメダカの甕を直撃。壊れた甕のなかにいた生後1～2か月のメダカの幼魚たちには最高の悲劇だった。他の水槽・バケツ、池のメダカは大丈夫だった。最大時には、4メートルの高さにまでなったサボテンは、この2年間の台風で何度も折れ何度も復活してきた。しかし、今回の台風では根元から折れてしまった。

南城市は、49.9メートル吹いたから、それ相応の被害だ。といっても、それは丘の上で風速が強い糸数のデータだから、我が家周辺は30～40メートルぐらいだったろう。



リーフは激しい波だ。中右は9日午後、ベランダからの撮影



後片付けをしたいが、まだ雨風が強いので、思うに任せない。日曜日ごろまでかかりそうだ。雨を運んでくれたのはよいけれど。

一番困ったのは、暴風が続いたので、琉球大学の授業が休講になったこと。4つのグループの企画プレゼンは一週間繰り延べにせざるを得ない。

もう一つは、長時間停電。16時間ほどだった。仕事は何もできないので、もっぱら窓際で読書。

## 鬼頭昭雄「異常気象と地球温暖化」(岩波新書 2015年)を読む 2015年06月25日

ニュースなどでよく目にするIPCC(気候変動に関する政府間パネル)の報告書執筆者の一人である著者が、「異常気象と地球温暖化」について、素人の私にもかなりわかる文で書く。

私に関心をもった箇所をいくつか紹介しよう。



「約一〇万年の周期で氷期と間氷期が交互にやってきました。今は間氷期で、それがすでに一万年以上続いています。いずれ、次の氷期が到来するでしょう。地球温暖化を心配するより、氷期がやってくることを心配すべきなのではないでしょうか。」

(中略)

いつ現在の間氷期から氷期に移行するかは、(地球の—浅野補注)軌道要素だけではなく、大気中の二酸化炭素濃度にも関係します。古気候記録によると、軌道配置が現在に近いときには、大気中の二酸化炭素濃度が工業化以前の水準よりもかなり低い場合のみ氷期が起こっていました。気候モデルの計算から、二酸化炭素濃度が三〇〇ppmを超えたまま持続される場合には、今後五万年間に氷期は生じないでしょう。二一世紀に想定されている二酸化炭素排出シナリオ(中略)、そのうち低位安定化シナリオの下でも、西暦三〇〇〇年まで大気中の二酸化炭素濃度が三〇〇ppmを超えていることは確かであり、軌道要素の変化によって今後一〇〇〇年間に氷期が来ないことはほぼ確実です。」p90-91

「海面水位の変化は、地域によっても大きく異なると予想されます。日本近海では、黒潮の南側の亜熱帯域で海面水位の上昇や、日本海の海水温上昇による海面水位の上昇が大きいと予測されています。将来は強い台風が増える可能性が高いと予測されていますので、最大風速の増加や海面気圧の低下により、沿岸域では高潮災害の発生頻度が高まると予想されます。」p124-125

近年の爆発的埋め立てによる低地が多い沖縄の懸念事項だ。また、沖縄を含めて日本では特に関係が深い台風については次のような予測が書かれている。

「地球温暖化の影響で、台風の発生域はどのように変わのでしょうか。多くの気候モデルの将来予測結果を解析した研究によると、温暖化した将来の気候下では、熱帯太平洋の海面水温と降水のパターンが変化し、降水量の多い場所が今より東へ移動すると予測されています。台風の発生場所も同様に、いま最も台風の発生しやすいフィリピンの東方海上を中心にして、その東側で増え、西側で減ることになりそうです。(中略)今世紀末には、

(1) 台風の活動最盛期である七月から一〇月の間に台風の存在頻度が顕著に減少する、(2) 台風経路は東へ偏る、(3) 東南アジア沿岸域への接近数が顕著に減少する、(4) 最大風速で見た台風の強度は増加する、と予測されています。

つまり、台風全体の数は減るものの、強い台風は増えるだろうという予測です。温暖化により、大気中の水蒸気量は増えますから、台風のもたらす大雨が増えるでしょう。」p147

「日本のすぐ南の海水温が上がることにより、台風ハイエン(昨年フィリピンを襲った台風—浅野補注)のようなスーパー台風が、衰えずに強度を保ったまま上陸してくることが起こるかもしれません。」p149

「将来の温暖化した気候では、熱波がより厳しく、より頻繁に、より持続期間の長いものとなる危険性が増大します。また、降水は集中してより激しくなるとともに、その間のほとんど降水のない期間が長くなる傾向があります。このため、長びく比較的乾燥した期間の合間に激しい豪雨が散在することになるでしょう。気温が上がるため陸上では蒸発が増え、地面はより乾燥する傾向になります。土壌が乾くとさらに気温が上がるため、二〇



○三年のヨーロッパの熱波のような異常気象がより頻繁に起こる可能性がでてきます。現在の異常気象の程度と比べて、強度が強くなると考えて、対策を立てる必要があります。」 p 151

「台風や梅雨期の大雨にさらされてきた日本列島では、洪水や土砂崩れは常に起き、それらが日本の地形を形作ってきました。それらは地形に残っていたり、地名にその痕跡を留めていたりしますが、人々の記憶には留められません。せいぜい10年先程度しか見通せない人間は、巨大地震や大規模火山噴火が近い将来起こることは冷静に考えればわかるとしても、自分の目の前に起こるとは考えないようにしています。」 p 206

経済成長ばかりに目が行って、地球温暖化に有効な対処をしていない諸政府などに対して強い警告になるだろう。また「なんとかなるだろう」と、二酸化炭素を大量発生させる現在の生活のありようを継続している人々への警告でもある。

「せいぜい10年先しか見通せない」状況を大きく変える必要があることを強調している本書の警告に耳を傾ける必要があろう。



## 5月前半の台風に驚く

2015年5月12日

今朝は、風雨と雷の音で起こされた。5時過ぎから強くなった。でも、さほど強くはならず、私の経験からいうと、風速20～25メートルぐらいか。被害はほんの少しですみそうだ。

それにしても、5月前半に暴風警報が出る台風とは記憶にない。

近くの玉城小は、10時までには登校してくださいという放送があった。

私の午後は、看護大学の授業。多分できるだろう。

右写真は、ベランダからの光景

左写真は、ズーム撮影したリーフ光景。中央に立っているのは、航路標識。

## 災害と地形

2014年6月14日

台風の時も含めて怖いのは、大雨によるがけ崩れだ。数日前も、志喜屋で大雨によるがけ崩れ、巨岩崩落が、新聞報道された。数年前にも、尚泰久王墓のある巨岩が崩れかかり、国道331号線に影響が出そうになって、応急工事が行われた。

南城市にはあちこちががけ崩れ危険地域がある。地盤がクチャ（泥岩）層ででき、そのうえに岩がのっているところでは、クチャが水を通さないで、そのうえを地下水が通り、大雨が降ると崩れやすくなる。我が家近辺もその危険があるようだが、近年では実際には起きていない。

しかし、そうした地形が、垣花樋川、仲村渠樋川、受水走水などの、水量豊かな湧水をたくさんつくっているのだ。恵みと災害は表裏一体なのだろう。

中城湾を囲む地域も、がけ崩れの危険が多いところだ。数年前の中城の琉球大学からやや北東側の斜面が崩れ、住宅の被害があったことが報道された。南城市でいうと、馬天御嶽が、がけ崩れで移動したことはよく知られている。

大雨の時、水が溢れだすことがある。我が家周辺でも、しばしば水路から溢れる箇所がある。グスクロードなどの道路工事が、溢れる原因を作っていると語る人もいる。最近はや予測を超える雨量があることがある。そんな時は、大変気になる。

逆に、日照りで農作物被害が出ることもある。聖地タマグスクは、雨乞い行事が行われることでも、歴史的に有名だ。伝説？民話？にもなっている。

2013年には、竜巻が海岸沿いに通過して、ビニールハウスなどが被害を受けた。沖縄は日本列島のなかでは竜巻が多いところだそうだ。

津波は、2011年3月の時は、わずかな水位上昇でとどまったが、数百年単位の歴史で見れば、大きな津波を受けただろう。私の推理だが、海拔20、30メートル以下の集落は、比較的新しくできたところが多い。もともとの集落は、丘の中腹以上にある。私が住む中山集落も、もともとは、海拔50メートルほどに立地していて、戦前戦後の時期に、現在の20～50メートル地点まで降りてきたようだ。

津波と集落立地については改めて考える必要があるかもしれない。ちなみに、我が家は、20～30メートルに立地している。このぐらいなら大丈夫だろうと、私の勝手な判断による。

先に、クチャ層のことを書いたが、クチャが風化して畑土化すると、ジャーガルになる。南城市の畑は、ジャーガルか島尻マージだ。いずれもアルカリ性土壌で、日本列島ではきわめて稀ということだ。私が育てているハーブ類にはアルカリ性を好むものが多いようだ。逆に、植木類には酸性が好きなものが多いので、鹿沼土などを加えないと育てるのが難しい。

中山海岸が、「遺物集積地」と文化財関係地図に書いてあるので、専門家に聞いたら、遺物が流れ着くことが多いからだそうだ。週に何回も海岸散策する私だが、遺物にめぐりあったことはない。ウミガメの遺体が流れ着くことはよくある。

リーフの切れ目から海流が流れ込んでいるためだろうか。海流が作る水路は、奥武島漁港に行きつく。中山付近は、小さな湾になっているが、それは海流が削ったものだろうか。私にはよくわからない。



市域のなかでも、場所によって気候がずいぶん異なる。糸数に天気予報に登場する測候ポイントがあるが、海拔186メートルで、風通しがとてもよいところだ。だから、天気予報で那覇より3度ぐらい低い観測が報道されることもしばしばだ。南城市内の住宅地の大半は、海拔100メートル以下にあるので、条件が随分異なる。私が住む南海岸沿いの中山では、糸数よりもやや高めだと思う。

知念半島の北側の佐敷、東側の知念、南側の玉城、親慶原やつきしろなどの台地上、大里などの内陸部、離島である久高島とでは、気候がかなり違う。

斜面に立地するところでは、どちら向きかで大きな差異がある。たとえば、私たちが住む南向き斜面に立地する中山では、南風は海から直接当たるが、北風は後ろの丘にさえぎられる。台風の風への警戒も地域によって異なる。

また、雨にも違いがある。佐敷に出かけると、玉城では降っていたのに、佐敷では降っていないとか、その逆のことはよくある。また、丘の上では湿気が高く、霧が発生することも多い。親慶原の道路を通っていると、視界が50メートル以下になるほどの霧に出会うことがある。丘を越えて降りて、新里ビラや、その反対側の仲村渠あたりまで来ると、霧が消えてしまう。

写真は、海拔20～30メートルの我が家の屋上から、タマグスク方向を写したものだが、我が家から直線距離にして、500メートルほどの標高180メートルのタマグスクが完全に雲？霧？におおわれている。海拔100メートルぐらいからは、真っ白くなっている。



10度以下になることは、年に一度あるかなしかだ。15度以下になると、寒いと感じる。夏は、30度を超すと、夏真っ盛りだな、と感じる。33度を超すと、たまらなく感じて、日蔭に限る。34度を超すことは滅多にない。名古屋や京都などで37℃などというニュースを聞くと、「沖縄に避暑に来ませんか」と言いたくなる。

道路や建物におおわれている那覇などの都市型気候とはずいぶん異なる。我が家のように海岸に近いと、ほとんどの場合、風が吹いているので、体感温度は、それほど上がらない。

それにしても、太陽が出る夏は、外出を朝夕だけにしたくなる。夕方散歩は、6時30分以降の夕食後になる。6月、7月の日没は7時30分ごろだ。

この地に住んで10年たつが、風速56メートルの台風を2度体験した。我が畑も含めて、近隣の木々が随分折れたが、目だった建物被害の話は聞かない。

我が家からは、大波が打ち寄せてくる光景が見られる。(写真)



満潮時になると、大波がリーフを越えて、イノーを突進してくる。一度、そのまま海岸にまで達し、一部が防波堤を越えて畑を浸水させ、農業被害をもたらした。農業被害で大きいのは、風によるサトウキビの倒伏や、ビニールハウス被害とともに、潮風による塩害が大きい。海岸から300メートルほど離れている我が畑庭にまで被害が及ぶ。賢い人は、台風通過後に大事な植物を水で洗う。それをしなかった我が畑庭は、塩害をまとも受けたことがあった。

## エーッ?! 南城市に竜巻?

2013年11月25日

NHKの夕方の地域ニュース最初に、「南城市に竜巻」という報道があった。びっくり。テレビ画面でみると、場所はどうやら新原から志喜屋あたりにかけてだ。气象台も調査をしているとのことだ。

朝6時ごろ激しい風で眼を覚ました。

ベランダの千年木の鉢が二つ倒れ、一本の千年木が折れている。こんなことは、昨年9月末の台風以来のことで、今年一度もなかった。雨量もバケツに20センチはたまっていたから、相当だった。

夕方の海岸散歩では、被害を目にすることはなかった。それでも、海岸に流れ出る川の水量から見ると、7、8ヶ月ぶりの降水量だったようだ。集中して降ったのは、1時間足らずだ。

それにしても、竜巻が身近なことと感じさせられた。



## 台風23号24号 2013年10月7日

今年は台風直撃がなくてよかったと思っていたところ、23号が接近。そして、24号が近づいてきている。

写真は、23号接近中、リーフに寄せる高波。波高7~8メートルぐらいか。我が家ベランダからの撮影。

23号は、最大瞬間風速が南城市係数で34メートル。係数は風がつよいところだ。ここ中

山は、北や北東の風は、丘が遮るので、多少弱くなる。加えて我が家は、東隣が森なので、東風には強い。今回の風は、北→東風だったので、私達には幸いした。

我が家の被害は、小さいハイビスカスが倒れかかったり、写真のように、壁面を這いあがるポトスが折れたりしたはしたが、大きな影響はない。しかし、近辺の畑では、サトウキビが東風をまともに受けて、倒れかかっているのが多い。

一昨年、昨年の台風は、50メートル以上の風が吹いたので、我が家の木も途中で折れたりした。吹き飛んだ枝葉の整理も大変だが、今年は、昨年10月の時の2~3%ほどの量で、写真のように、大きな容器2~3杯に収まりそう。昨年は、数カ所に大穴を掘おって埋め、さらに庭にハーブ園の山を作ったほどだった。

これで、4ヶ月続いた少雨状態の解消となることを期待する。あと数日すると、緑があふれ始める事だろう。

しかし、24号が迫ってきた。今度は、風向が北、返し風が北西になりそうで心配だ。無事通過することを祈っている。



## 台風、期待の雨をもつてこず

2013年7月12日

台風が通過しつつある。私もそうだが、近隣の農家にとっての関心事は、雨が降ってくれるかどうかだ。先日、カンダバー（さつまいものはっぱ）に水やりをしている農家があった。これほど水不足とは深刻だ。





我が庭ではタマリユウが変色し始めた。めったにないことだ。

12日夕方から降水確率が高くなるので、期待したい。

風はたいしたことないので、サトウキビが倒れる心配は少ない。我が庭では、通過後、落ち葉や折れた枝の整理が追われることが多いが、今回その必要はなさそうだ。

リーフの波だけはすごい。台風の強さを示している。写真は、我が家ベランダから撮影。直線距離にして、数百メートルも離れてはいない。

## まいったまいった、「これでもかこれでもか」と来る台風

2012年10月1日

今年はいくつ来ただろうか、分からなくなってしまった。前回のもの、今年は終わりだろうと思っていたら、また来た。



しかも、強力な風だ。昨年5月末に台風では、56メートルが吹いたが、これは、それまでの私の体験では最高だったから、もうそんな台風には会わないだろうと思っていたら、今回も55メートルだ。屋上のドラゴンフルーツの鉢は、去年は倒れなかったが、今回は倒れた。隣地のモクマオウや、いくつもの木の枝が折れている。

中左の写真は、暴風の最中、窓越しに隣の森を撮影

今回は、何回も来襲する台風で、我が家で倒れる木はないと思っていた。しかし、玄関のオオバナアリアケカズラのアーチが、中右の写真のようにひんまがった。サボテンが完璧に折れて、下の手前に転がっている。

隣の森の木の葉も無残にも飛ばされ、今まではっきりとは見えなかったガジマルがすっきりと見える。巨木なのだ。下の幹たちの周りをロープで測れば、10メートル近いだろう。

困ったのは、長期停電。玉城に住み始めてからは最長記録だ。今年の何度かの来襲の際にも停電しなかったが、今回は、暴風になったと思ったらすぐに停電。しかもなかなか復旧ない。結局、30日16時ごろ復旧したから、33時間の停電だ。

コンピュータが動かないと、困ってしまうことに改めて気付かされる。昨夜は、ロウソクで本を読んだ。お陰

で、昨日は昼間も含めて、たくさん読めた。今日は、後片付け仕事をうんとした。後片付けで最大の作業は、玄関アーチ取り外し。3時間ほどかかった。上の写真は、オオバナアリアケカズラなどの『残骸』だ。高さ1メートルを越す。我が家全体では、この量の数倍になる。だから、すべての作業完了には、一週間必要だろう。

アーチをとってみると、スキッとほする。でも、一年ぐらいで、再び生育してくるだろう。今度は、より頑丈な支えを作る必要がある。

畑の整理はこれからだ。

#### 付けたり

停電が終わって、早速、コンピュータ作業にとりかかろうとするが、電源が何度やっても入らない。コンピュータのマニュアルを読むと、電圧が低いと入らないことがあるという。皆が一斉に電気を使い始めたためか、発電が間に合わなかったのか。1時間してようやく電源が入り作業開始。



## 台風の大波

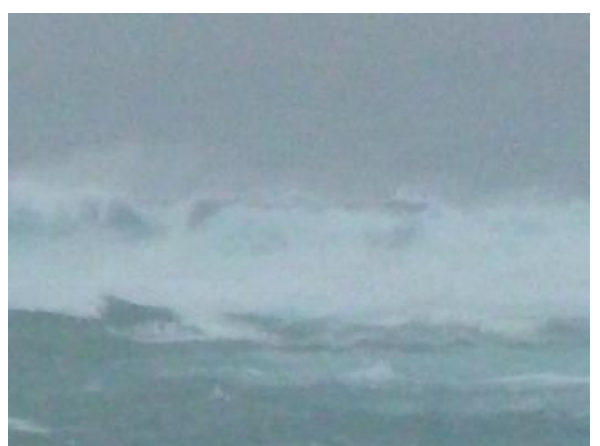
2012年6月18日

台風接近。今夜が最接近のようだ。

私の仕事部屋から、リーフ先端の大波を写す。直線距離は、1キロ余り。18日午後3~6時にかけてだ。6時過ぎから、風雨が強くなってきた。



このあたりは、  
新原・玉城・中山・奥武の海岸だ。  
今日の2時ころの



干潮時には、このすぐ近くのイノーまで散策した。雨が降り出す直前だ。降り出すと、外出できないので、いつもは夕方にする散歩を早めた。

午後の授業は、台風接近で全学休講となる。今年に入って、私個人の事情による休講は、例年通り全くないので、初休講というわけだ。

## 長い暴風雨時間にうんざりの台風 9 号 大変な後片付けへ

2011 年 8 月 6 日

今度は珍しく停電がないな、と思っていたら、停電。ほぼ丸一日。さきほど復旧。

台風の特徴。

1) 北北東の風から始まって南西の風まで。沖縄本島をぐるっとまわって通過したからだ。



前回の台風にはなかった北方向からの風が、我が家の中庭のキバタイワンレンギョウを倒した。

風雨が弱くなって最初の作業は、これ

を引き起こす。人力では無理。そこで長いロープを電柱にかけて、力学的に少しずつ起こしていく。1時間近くかかる。



2) 25~40メートルの風が40時間ぐらい吹いた。お陰で、隣の森の枝葉が随分落ちた。2号で落ちたのに、さらに落ちた。その結果、いままでほとんど見えなかった隣家が、木々の間に見えるようになった。

3) 雨量が半端でなく多い。

海岸沿いの畑が冠水している。冠水は初めて見る。2号の被害から回復しはじめた農家にとっては、大変なことだろう。今年は、台風の当たり年か。

我が家の後片付けも、2号ほどではないが、数日かかるだろう。





## 台風9号通過中

2011年8月5日

写真は、午前7時20分。我が家ベランダから畑・海方向を見る。雨で、海の波ははっきりとは見えない。

畑の作物が激しく揺れている。

今のところ、5月末の台風ほどではない。昼過

ぎ再接近という情報だから、このあとどうなるのか。

停電は、1分ほど、2回あったが、こうしてコンピュータ・インターネットが使えるからラッキーだ。

これまでのところ、北東の風、東の風が中心なので、我が家も、北北東側の玄関周辺の植物が大被害。

右下の写真。サボテン大木が、ボキボキ。残るは一本だけ。

キバタイワンレンギョウも倒れている。いつも写真の中心にあるが、今は地面近くに倒れている。

後片付けが大変になりそうだ。



## 台風の波 2011年6月26日

24日昼 奥武島龍宮から撮影

テレビなどでよく見るサーフィン向けの波を10倍ぐらいにした感じ。波の壁ができています。

これから崩れ始める。壁の上部のほんの少しに白波が見える。

もう一枚（中左）

これは大波が崩れ、白波がたつ。

この後、さらに大きな波がきたが、素人の私には撮影困難だ。



連続の台風襲来。

5月末の台風で、我が家の畑庭は、大きなダメージを受けたから、今回のダメージは目立たない。それでも、いろいろと影響を発見。

今年は当たり年なんだろう。ここ数年なかったから、まとめでの襲来か。

## 台風 2011年5月28日～6月7日

1号が来たと思ったら、2号。今年は発生した台風はすべて沖縄に来るのかな。などと思ってしまう。しかもまだ5月だ。例年なら、発生したうちの2、3割ぐらいしか接近しないのに。

仕事部屋から、リーフがよく見える。リーフ内側のイノーまで、白波がたっている。

撮影は、午後4時。満潮時間に近い。

写真中央付近に立っている棒は、航路標識

海鳴りが激しい。風の音と重なる。慣れっこになっているけど、大きい音だと思う。

写真には、偶然、鳥が写っている。

近所の農家は大変だ。ビニールハウスのビニールを全部







取っている。今はゴーヤの最盛期だし、マンゴーも重要な時期だ。ビニールをとれば、ビニールハウスは大丈夫だとしても、収穫できなくなる可能性が大だ。

我が家のティートリー、ワシントンやしは根元から折れた  
左写真の千本木は折れ倒れる  
手前のブーゲンビリアは枝だけの裸状態

マンゴー、ライチなど果樹は収穫ゼロへ



幸いに建物は大丈夫。後片付けに一週間かかりそう。

今回の台風は、久しぶりに凄かった。7年前に住み始めた直後に会った風速56メートルの時以来の強風だ。周辺の木々の折れ具合からみて、その時並みか、それ以上だ。

建物そのものの被害はゼロだったのが、慰みにはなる。それでも、いろいろとショックだ。

玄関脇では、サボテンがぽっきり折れた（上右写真）。高さが4メートルを超えており、ロープで支えている個所の上で折れた。



他にも、ハイビスカスやキバタイワンレンギョウ、オオバナアリアケカズラ、パッションフルーツなど、軒並み、折れ、ちぎれている。

入り口のポールに立てたソーラーランプも飛んで落ちた。窓ガラスには、葉っぱなどが大量にこびりついている。

29日は、まず、この周辺の後片付けをした。中右の写真は、玄関の堆積した枝葉

我が家周辺には巨木は多い。その一つは、我が家から50メートルも離れていないところのモクマオウだ。



10メートル以上ある感じだったが、高さが半分ぐらいになってしまった。くっついているアコウ=ウスクは大丈夫だった。

読谷のガジマルが倒れたという報道があったが、我が家では、一番強く、びくともしなかったのはガジマルだった。葉っぱさえ、ほとんど落ちなかった。もっとも、樹齢7年の若木だからかもしれない。





前ページ  
下写真は、  
我が家の北  
側を撮って  
いるが、左  
に折れたモ  
クマオウが  
写っている。  
丘の中腹に



は、葉っぱをほとんど落とした木々が並んでいる。

上左写真 我が家から南東側の巨大墓の木々は、スケスケになっている。大きな枝も折れている。海岸の防風林もすけすけになっている。

上右写真 我が家から南西側は、今回とくに風あたりが強く、スケスケ状態が激しい。我が家の南西端にあるチシャノキは、葉がほとんど、やられている。その手前にある赤茶けた葉は、ライチだ。収穫直前の実が全滅状態だ。

右写真は、我が家ベランダから、海岸を写したもの。

正式の名称は、防風林なのか、防潮林なのかは知らない。

両方の役割があるように思う。

台風の前で、たくさんのモクマオウがでやられて、スケスケになっている。倒れて道路をふさいでいたものは除去された。

海岸から200メートル近く離れた我が家でも潮風被害はひどいから、もっと海辺に近い畑では深刻だろう。

スケスケになったものだから、海岸近くの岩まで見える。その向こうの海の向こう側は奥武島漁港だ。



次は、中庭の台風前と後

左は台風後。スケスケになっている。右は、台風前 観葉植物を中心に、亜熱帯雰囲気少しははじめていた。1, 2年前から作り始め、ようやく「まとも」になってきたか、というときにやられた。



また、1  
年かけてき  
れいにしよ  
うと思う。







台風の潮風にも耐え抜いている代表格はガジマルとクロキ。多少は枝が横向いているが、葉は青々としている。隣の巨大墓の森。風でスケスケになり、上の方しか見えなかったガジマルが、下の幹部分もよく見えるようになった（上左写真）。たくさんの気根が幹化しているので、一周すると、10～20メートルくらいにはなるだろう。

こんなにすぐ近くに巨大なガジマルがあるとは気付かなかった。いつも屋上から眺めていて、巨大であることはわかってはいたが。樹齢は、40～60年というところだろう。戦後成長し始めたことは確かだろう。

ついでに、我が家のガジマルも元気。これは樹齢7年で、隣の巨大ガジマルの10分の1以下だ（上右写真）。

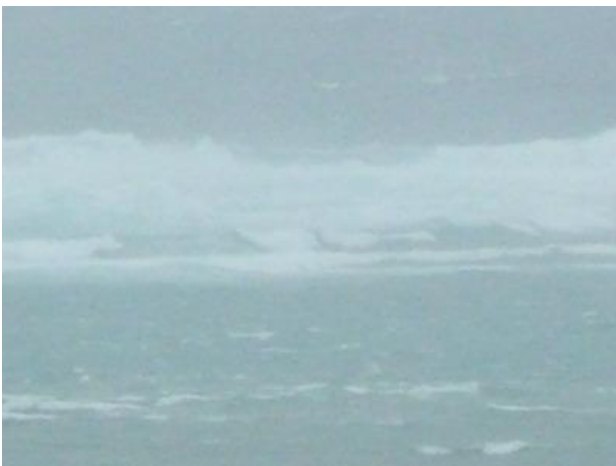
## 台風1号の波

2011年5月11日

台風1号が接近するとは、経験がない。沖縄からずっと離れたところに行くイメージだ。小さい台風で、暴風雨域がないということだが、結構パワーを感じる。

私の仕事部屋から、海を見ると、荒れ方はなかなかだ。午後2時前後、満潮に近い時間帯なので、イノーにまで白波が立っている。高波が崩れているところが、サンゴ礁の先端だ。

右写真の左下は、船向けの航路標識だ。大潮干潮の際には、この近くまで歩いていけるが、海岸から数百メートル先だ。



# 動物

## ガラスヒバア 最近の我が家の動物事情 2016年8月31日

森に囲まれたというか、森の中にあるというか、そういう我が家は、いろいろな動物と出会う。動物たちが生活しているなかに割り込んで住んでいる私たちだから、出会うのは当然だろう。かれらが、私たちの出現？侵入？を迷惑がっているのかもしれない。

今年に入ってから話題になる動物。

ハブ取り網にかかったハブが三匹

ハブ除けに、野良猫が有効だという話を聞いて、野良猫に餌を挙げていたら、私が勝手に名付けたチュラマヤ一さんが、毎日、我が家を通るようになって三か月がたった。最近、夏バテか、他に餌場があるのか、食が細くなっている。

そして、この4か月ほど、我が家最大の話は、大量発生したアリの、屋内にも大量に現れる事。大量降雨で、屋内に避難したのかもしれないが、例年とは、桁数が2つも違う程だ。いろいろな作戦を展開した結果、少々落ち着いてきた。これへの対処は、恵美子が主任だ。ハブは私だが。

そんなこのごろ、29日朝登場したのがガラスヒバア。3階ベランダの鉢周辺に登場。地上からブーゲンビリアなどを伝って登ってきたのだろうか。出会ったことがあるかもしれないが、記憶に薄い。写真を撮って、インターネットで調べる。

どうやら、ガラスヒバア。有毒だが、実害例はないとのこと。ハブほどの恐怖心を与えないが、好きになるほどのものではない。



捕獲しようと、虫取り網を使うが失敗。消えた。まだ近くにいるのか、どこかに消えたかも判然としない。







## 池 メダカとグッピー

2016年6月23日

池つくりの話のその後。

無事完成して、メダカが卵を産み付けてあるホテイアオイを入れ込んだ。沢山過ぎるので、半分だけ入れて、残りはバケツ3杯に入れてある。現在、稚魚が合計50匹ぐらいいると思う。その半分ぐらいが成魚になることを祈っている。

梅雨末期の豪雨の水が流れ込んで大変だったが、なんとかした。

これまで水槽にいた成魚20匹は、庭のこれまでの池に移した。それまでにいた15匹余りと、合計30匹余りで、賑わしく生活している。

他に巨大バケツに幼魚20匹余りが暮らしているが、一か月もして、池が落ち着けば、どちらかの池に移すつもりだ。

これまでの水槽は、掃除をして一階の室内に移した。何を育てようか迷ったが、育てやすく美しいグッピーにした。これまで、何の装置もつけなかったが、今回は、ろ過装置だけをつけた。こんなに水がきれいになるとは、驚きだ。

グッピーは、3つがいを購入した。元気そのものだ。餌もすぐに食べきる。

まだ幼魚のはずだが、もうオスがメスを追いかけている。



### 余談

今年3匹目のヒメハブがハブ取り網に引っ掛かった。網設置後3年間は一匹もかからなかったもので、驚いている。ヒメハブにしては結構大きい。繁殖の季節だからかな、とも思う。もうそろそろ、おしまいにしてほしいな、

と思う。だから、写真掲載はしないことにする。



## 庭にホタル

2016年05月06日

先ほど、20時40分ごろ、庭にホタル発見。1匹は、強い光。リュウキュウハギのあたり。もう一匹は、弱い光。オリズムランのあたり。

写真撮影を試みるが、画像にはうつっていない。光が弱すぎるためだろう。

昨年秋には、同時に数匹あらわれた。この時も写真撮影は成功していない。

我が庭が、生育環境としてよくなったためだろう。無農薬だし、池をつくったのもよかったのだろう。

この分だと、今年は観察に期待がもてる。撮影方法の学習もしなくてはならない。

## イソヒヨドリの雛が消えた

2016年4月28日



その後、雛たちは順調に生育し、眼もあいた。

ところが、27日朝異変が起きた。

巣は空っぽになった。その後も、戻ってきた気配はない。27日午前までは、親鳥たちの声も聞こえた。しかし、その声も遠のいた。我が家の西隣の森から声が聞こえる。



そこで、私が思いついた推理

- 1) 隣の森に引っ越した。
- 2) 別のイソヒヨドリが、雛を奪った。27日朝、元の巣の近くで、成鳥3羽が争っていたのを目撃したからだ。成鳥は、2羽が雌、1羽が雄だった。
- 3) カラスやヘビが雛を襲った。

答えを知るには、しばらく観察を続けるしかない。

ところで、最近カラスが増えて、たまにしか見な



かったこのあたりにも常駐するようになった。カラスは人に危害を与えるニュースを見るので気になる。
 そのことで、ある狩猟家の話を聞いた。カラスは、豚や猪の子どもも襲うとのことだ。カラスはとても頭がいい
 ので、銃で狙をする人の顔まで識別して警戒するようだ。最近、南城市は禁猟区に指定されたが、カラス対策を
 どうするつもりなのだろうか。行政はたらいまわしが多いので、心配だとの話だ。
 ところで、今年は、なぜかタイワンシロガシラが現れない。カラスが出没するためだろうか。
 また例年、メジロが我が家のマンゴーの木に巣作りをするが、今年の出現回数はとても少なく、巣作りをしてい
 る気配はない。
 鳥の世界について、私はよくわからないが、観察を続けていきたい。

**イソヒヨドリ 雛が孵る** 2016年4月24日



4月3～5日に3個生んだ卵を温め続けた我が庭のイソヒヨドリだが、19日ついに孵って雛3羽が誕生した。
 まだ時々、親鳥が温めている。温度管理のためか、カラスなどの侵入を防ぐためか。
 毎日観察し撮影している。写真は、20～22日に撮影したものだ。親鳥が虫などを雛に与えるシーンも見ら
 れるが、撮影に成功していない。撮影は、巣から5メートルほど上の3階ベランダからしている。巣は、地上3



メ  
 ー  
 ト  
 ル  
 近  
 く  
 の  
 高  
 さ







で、クロキのてっぺん近くにある。

## いそひよどりの巣・卵

2016年4月6日

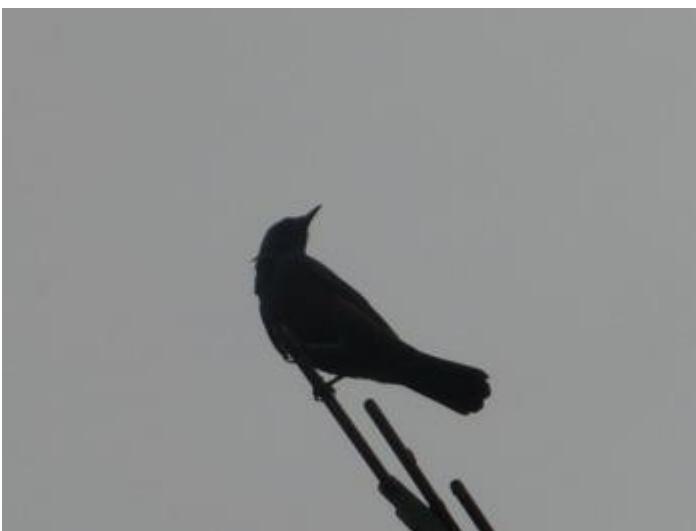
3月末から、ベランダ周辺をいそひよどりが忙しく飛び回る。



枯草などをつまんで飛んでいる。それを、クロキの枝葉の間にもっていく。どうやら巣作りだ。

4月初めに、巣が完成したようだ。(右上写真)

4月3日、卵発見(中左写真)



4月4日、2個目の卵発見(上左写真)

4月5日、温め始める(中右写真)

私が撮影していると、警戒してか、監視している(左写真)

クロキは、3階ベランダのほぼ真下にあり、観察に絶好。ここに巣作りをするのは、すべての鳥の中で、初めてだ。

マンゴーの木は、毎年、メジロが巣作りをする。今年はまだだ。メジロの巣は見つけにくい。秋の剪定の時期に気付くことが多い。

## 足数が少なくても頑張る蜘蛛

2016年2月27日

左写真の蜘蛛は、左側の脚が2本少ない。

私の仕事部屋で、私の直前の壁を歩いている蜘蛛が、ちょっと変なことに気づいた。よく見ると、脚が2本足りないことが分かった。なぜだかはわからない。

調べると、蜘蛛の足は4対8本なのだそうだ。これも知らなかった。

右写真は、机の上で死んでいた蜘蛛。そのままほっておいたら、ミイラになっているが、形はしっかりしている。

どんな種類なのかはしらないが、我が家には結構いる。アリなどを食べる益虫なのだそうだ。我が家のものも、アリなどを食べている。蜘蛛の巣を張るわけではなく、あちこちにいます。私たちは慣れているので、「また、活躍してくれているな」ぐらいの感じで、そのままにしておく。でも、客人は驚く。私たちも、住み始めたころはそうだった。数センチと結構大きいのだ。だから、客人には、実物に出会う前に「びっくりしない」ように話してお



く。

他にも、建物内にいるものとしては、ヤモリなどがいる。多くないが、ムカデもいる。隣家では刺された人がいる。びっくりして、救急車で病院にいったそうだが、医師は、手当をなにもしなかったようだ。

屋外にいるハブの場合は、悠長なことはいっておれないが。

自然のなかで住むとは、こういうことだ。

## ハブ取り網にかかったハブ

2016年1月7日

数年前に、ハブセンター関係者からすすめられて、ハブセンターからいただいてハブ取り網を設置した。関係者は、ここはいそうだから、かかる確率が高いと「太鼓判」を押していたが、長期間かからなかった。





しかし、6日午前庭畑作業の時、かかっているのを発見。前日まで気づかなかったから、おそらくかかって間もないだろう。恐る恐る棒でさわると反応なし。息絶えているようだ。

赤ちゃんハブか、ヒメハブだ。全長30～40センチほどだ。

敷地内で、ハブに出会うのは、久しぶりだ。前は、2013年9月23日記事に書いたが、プランターを持ち上げた時に、下から出てきて、殺した時だ。ここに住み始めて11年余りになるが、通算4回目だ。2～4年に一回の出会いだ。

それにしても、こわい。気分的にいやなので、庭畑仕事も、ハブから離れてしている。数日後に処分しようと思う。ハブをご覧になりたい方は、どうぞいらしてください！。



## リュウキュウアサギマダラ

2015年11月19日

異常な暖かさを越えて、暑くさえある日が続く。

今年は、蝶が少ない。一昨年、昨年の台風の影響だろうか。それでも、ようやく最近、



蝶が増えてきた。写真リュウキュウアサギマダラは、ブルーベリーの新苗にとまっている。羽が少しちぎれているので、何かにやられたのだろうか。

そういえば、先週末の具志頭で見た大型蝶を図鑑で調べたら、日本で一番大きなアゲハ蝶のナガサキアゲハだった。オオゴマダラは、今年は見ないままだ。

## トンボ

2015年9月27日

このところ、トンボが飛び交うことが多い。例年、我が家周辺では、たくさんの蝶が舞うのだが、今年は少ない。「蝶に代わって」というほどではないが、トンボが多いのだ。ここに住み始めてでは、もっとも多い感じがする。

原因は不明。雨が多いためだろうか。庭の池にもトンボがよく来る。赤ちゃんメダカを育てているバケツにも、



ヤゴが産み付けられた。それが羽化したトンボの写真は、しばらく前に紹介した。そのヤゴがメダカの赤ちゃんを食べてしまうためか、成魚になるメダカの数が減っている。

右写真は、タマグスクを背景に飛び交うトンボを撮影したもの。その撮影中にリュウキュウオオコウモリが、私にニアミスをしてきた。左はその時の写真で、羽を伸ばした体長は1メートル近い。

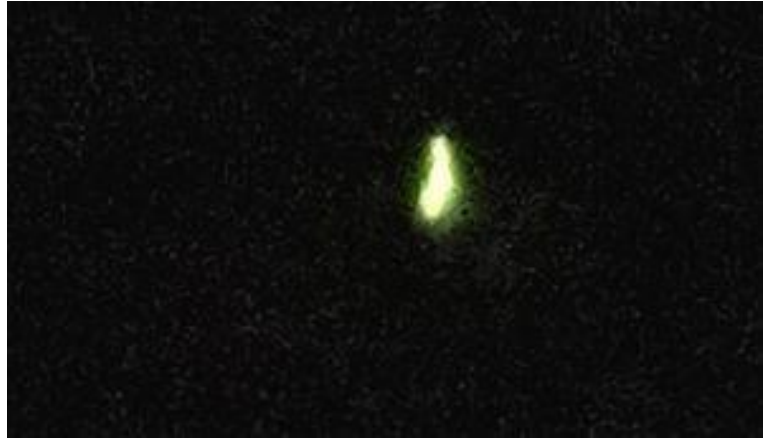


## ホタル

2015年8月31日

先ほど、19時15分、ベランダから庭を見ていると、点滅するものがある。どこかの明かりの反射かと思ったが、そうでもない。

ホタルだろうか。恵美子と一緒に確認。恵美子がいうには、我が家の訪問者の一人がホタルを見たとのこと。7、8年前にも、ホタルを見たような、そうでもないようなことがあった。



そこで、近くまで行って、写真撮影。もう一匹いそうな気配も感じる。19時50分何枚か撮ったが、一枚しか写せなかった。そのうち、こちらの動きを察知してか、飛び始めた。明らかにホタルの動きだ。そして、視界から消えた。完璧にホタルだ。

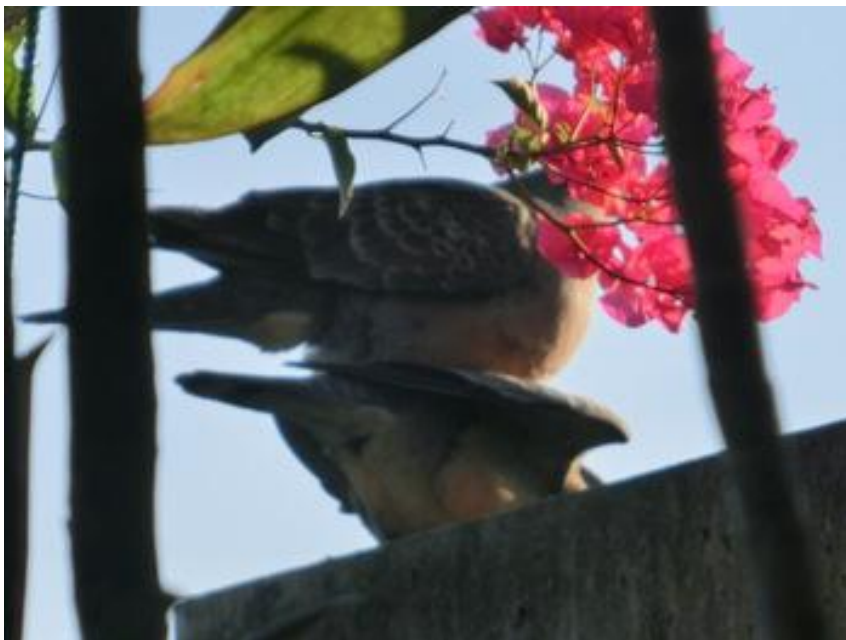
発見場所は、芝生から植木の庭への移行中で堆肥造成中のところ。2メートル足らずの所には、私が作った池がある。そこには、カワニナが沢山いるのも、幸いしたか。

ここに暮らして、間もなく満11年。とってもうれしい。たくさんのホタルが飛び交う庭畑にしたいものだ。写真は、ホタルだけをすごく拡大したもの。うまく写せる技術が必要なようだ。

## ベランダで鳩の交尾

2015年8月19日

食事は、ベランダの向こうに広がる摩文仁光景を見ながらが多い。そのベランダの塀の上で、二羽の鳩がじゃれ合う。やがて交尾を始める。以前にも目撃したことがある。今回は、近くにカメラがあったので、撮影。交尾



が終わったころ、別の一羽がやってきた。どんな家族構成なのだろうか。鳩とイソヒヨドリは、ベランダのメダカ水槽に水飲みにやってもくる。

## 我が庭のメジロの巣に赤ちゃん発見

2015年4月19日

今日は、朝から雨。オープンガーデンにでかけるのはあきらめた。

朝、中庭で、私にすぐ近くでメジロ二羽がよく鳴く。どうして、と思う。

昼前、中庭をいろいろと見ていると、タイワンレンギョウにメジロの巣を発見。毎年、メジロは、我が庭のどこかに巣を作る。しかし、発見は難しく、巣立ちが終わってから、夏、混雑した木の剪定をした際に、発見するのが普通だ。この時期に発見するのは珍しい。



そのうちに、なにか動くものを発見。

そっと近づいて、ズームアップしてみると、赤ちゃんがいるではないか。肉眼では見つけられなかった。

下写真は、巣の全景 大きさは数センチ。雨が当たらないように工夫してあるので、なおのこと見つけにくい。

撮影中、近くでは親鳥の鳴き声がよく聞こえる。心配しているのだろう。

無事の巣立ちを祈る。

## 渡り鳥（アカハラダカかサシバか）

2014年10月17日



14日朝、  
渡り鳥の群れ  
に出会った。  
6時50分、  
国道331号  
線を中山から  
百名方向に上  
っていくと、  
10数羽の大  
型の鳥が見え





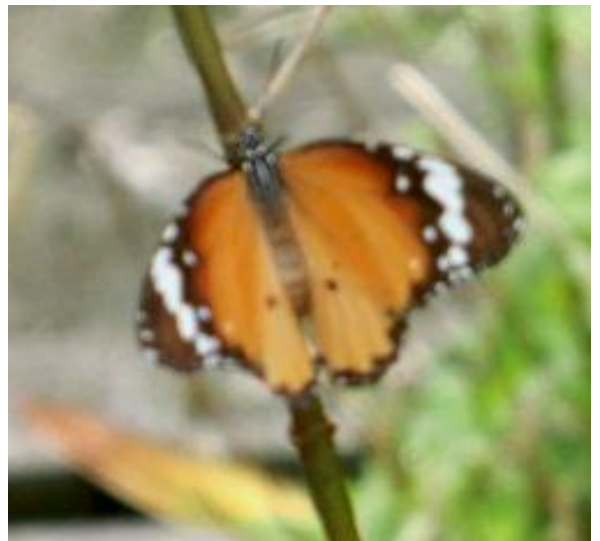
る。帰宅して野鳥図鑑を調べると、アカハラダカとサシバが候補になりそうだ。説明文を読むと、10月、早朝、大群という条件にあうのは、アカハラダカ。サシバの可能性もある。1000メートルぐらいの上空なので、私の判別能力ではわからない。

この時期、見かけることが多いが、たまたまデジカメを持参していたので、撮影できた。わずか5分ぐらいで西方に消えた。

## タテハモドキ カバマダラ シロオビアゲハ 蝶の季節 2014年9月7日

7月台風以降、蝶の来訪が激減した。緑と花が激減したからだ。最近になって、ようやく戻りつつあるといっても、例年より少ない。期待のオオゴマダラも滅多に見ない。いくつか紹介しよう。

タテハモドキ 我が庭では初めて出会い撮影した。左写真。



カバマダラ 食草であるトウワタをたくさん育てている我が庭の定番 右写真



左写真は、宮古のカバマダラ 本島とはちょっと異なるそうだが、私にはよくはわからない。



上写真 シロオビアゲハ これも我が家の定番

上右写真 シロオビアゲハのメスⅡ型 ベニモンアゲハに擬態している  
と本には書いてある。



### オタマジャクシとメダカ

2014年9月1日

我が家の池・水槽には、メダカとオタマジャクシとが共生している。  
7月下旬、左下写真の蛙が池にオタマジャクシを大量に産み付ける。  
昨年、池を作った時から、産み付けることをしていた。この種の蛙  
だけでなく、大きな泡のなかに卵を包み込んだ種もいた。昨年は、全  
部、外にとりだした。今年も、最初はそうしたが、全部取りだすのは難しい。そこで、少し位残していたらどう  
なるだろうかと「実験」を始めた。一部は水槽でも「育てた」

どんどん成長するが、メダカとオタマジャクシがケンカしたり、食い合ったりすることはないようだ。実際はあるかもしれないが、見つけられなかつただけかもしれない。  
メダカ向けの餌を、食い合っている。

池の方には、別の種らしきオタマジャクシもいる。

そして、オタマ





ジャクシから、足がでてくるほどになった。26日は、一匹、水槽から飛び出した。どこかしらへ飛んでいったので、写真撮影できなかった。

この流れで行くと、ここ10日ほどで、全部、蛙になり飛び出していけよう。蛙は虫を食べてくれる点でいいだろうが、ヘビを呼び寄せもするので、今後どうするかは、慎重検討が必要だ。

## メダカ池 カダヤシ エンサイ

2014年7月27日

昨年8月からメダカを飼っている話は、しばし記事掲載しなかった。

20匹買ったが、そのうち14匹ほどが順調に生育し、10月ごろから産卵し始めた。卵を親が食べるというので、産み付けたホテイアオイをバケツに移した。数日後には赤ちゃんが泳ぐようになる。一か月ぐらいして、



水槽に戻すと、数日でいなくなる。赤ちゃんを親たちが食べてしまうのだ。

そこで、3か月間バケツで育て、2センチ近くになってきたものを水槽にもどすと、大丈夫。

こうして、現在、水槽に30匹近く、玄関脇の甕に20匹余り、バケツの稚魚が30匹近くになった。もう殖やすことに精を出す必



要はなさそうだ。

他方、庭の池に育てていたカダヤシ（タップミノ）が、先日の台風以降、見かけなくなった。原因不明だが、メダカとかグッピーだと思い込んでいた以前に比べて、私の面倒見が格段に悪くなったことが大きいだろう。



ということで、住人がなくなった池に、現在バケツ飼育中のメダカを移すことにした。池を洗って、ホテイアオイとエンサイと買ってきた水蓮とを入れた。数日後に、メダカを移す予定。ただ、池に蛙がしばしば出入りしているのが気がかりだ。いつものように、たくさんのおタマジクシを産み付けそう。

エンサイを入れるのは水の浄化作用が強いからだ。濁っていた水槽の水も、先日、元気のいいエンサイを入れたら、透き通ってきた。



いつかりユウキュウメダカを飼ってみようか、などとも思っている。それとも、他の種類にするか。小さな魚は、私の「癒し」係でもあるようだ。

## オオジョロウグモ メスとオス

2014年7月16日

我が庭畑で、現在一番元気なのは、オオジョロウグモだ。目につくだけでも10組をはるかに超す。だから、庭畑を歩けば、遭遇するどころか、蜘蛛の巣にぶつかってしまうことが日常的だ。



玄関ドアに  
蜘蛛の巣を作

った時は、移動していただいた。

その玄関先のハイビスカスとキバタイワンレンギョウとサボテンの間に作った巣のものが観察に絶好なので、10日余り観察し続けている。

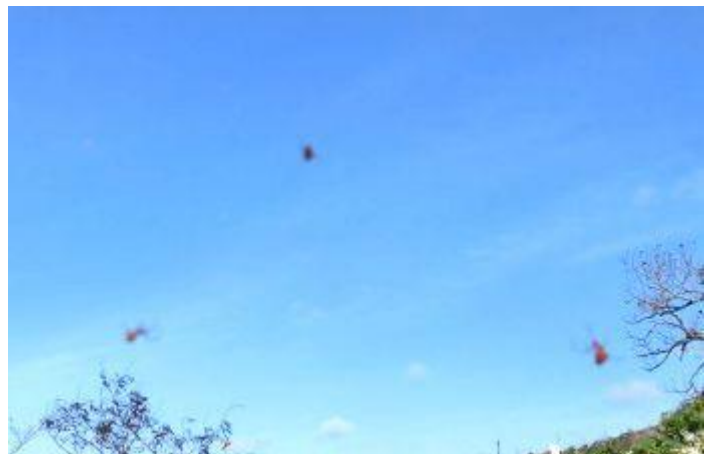
彼らは台風をものともしていない。現在メスは10センチを超えた（上写真）。通常は、8月になって10センチを超え、10月ごろに20センチ近くなり、11月に入ると、見かけなくなる。このメスはどこまで大きくなるのだろうか。

この巣は、花が多いところにあるので、蜜を求める蝶がよくひっかかる。先日は、一日で4匹のツマベニチョウを食べていた。

驚きは、この巣にオスが10数匹住んでいることだ。普通は、2~4匹なのに、こんなにいるのは初めて見た。通常、1センチぐらいの大きさなのに2センチほどのものまでいる。栄養状態がいいので、オスも大きくなっているのだろう。

メスを撮影するのは、至極簡単だが、オスの撮影はとても大変だ。小さすぎて、ズームアップすると、自動焦点がクモからずれてボケてしまう。いろいろと試した結果のなかで、よくとれたものを紹介しておこう。

右写真は、巨大化した数ミリのオス3匹





## イソヒヨドリ

2014年7月11日

左写真は子ども。

巣立ちしたばかりのイソヒヨドリが、我が家のベランダを餌やり場にして、日々活発に動く。私は楽しんでいるが、ベランダに糞をまきちらすので、恵美子は嫌がる。

親鳥が取ってきた虫を子どもに与える。子どもは、すでに親鳥の大きさに近いが、鳴き声が「ジージー」となって、上手に鳴けない。

親鳥は母親だけで、父親が見当たらない。同じ形と色の親子だし、動き回るの、子どもが2羽なのか3羽なのか、はっきりしない



中左写真 母 誰かを呼んでいる

中右写真 家族の一員なのか、はっきりしないが、近くにいるもの



下写真は、二羽の子ども



## アーマン (オカヤドカリ) が 海岸へと歩く時期

2014年6月10日

梅雨、とくに6月に入ってから、我が庭、とくに排水路付近で、アーマンに出会うことが多くなる。

多分、海岸での産卵に向かうのではないか。数百メートル先の海岸までご苦労様だ。水路を歩いていけば、安全だろうが、道路を横切ることになってしまうと、大変だ。事故にあわないように祈る。



写真のアーマンは、大きさが10センチ近い。ちなみに、天然記念物である。



## 我が庭のオオゴマダラ 幼虫 → さなぎ → 羽化

2014年2月15日



この一カ月、毎日の「今日か今日か」の観察を続けた。さなぎから羽化まで一か月かかった。

まず幼虫の時 右写真。1月10日撮影。

9匹ぐらいが元気良く食草のホウライカガミを食べる。結構たくさんあった葉っぱの半分ぐらいを食べた。

一匹がさなぎになる。1月





14日撮影（前ページ左）

何匹もいた他の幼虫はどうしたのか、と探していたら、ホウライカガミから2～3メートル離れたらせん型ハーブ園のなかのアフリカン・ブルー・バジルにサナギ一つを発見。右写真 1月17日撮影



インターネットサイトでみると、羽化まで1週間～1ヶ月かかる  
とある。

待ちに待って、2月14日朝7時、アフリカン・ブルー・バジルの方のさなぎが羽化しているのを発見。前日、さなぎの色が黒っぽくなっていたので、予感がした。羽化過程が見られなくて残念。



14日は一日じゅう、さらに15日午前も、寒さのためか、写真のように脱け出したさなぎにくっついたまま、じっとしている。

もう一つのさなぎは、さなぎのまままだ。15日午前の観察では、少し黒っぽくなっているの、羽化間近だろう。

## メダカの卵・孵化

2013年10月12日

いろいろなドラマを経て、8月から飼い始めたメダカ。8月30日の記事を参照してください。

藻の中に卵を発見。大人のメダカが食べる





事もあるというので、藻ごと、別の容器に移住。

昼ごろ、見ると、一匹瞬っている。次写真の中央、やや右上より。

卵はいくつもあるので、何匹瞬るか楽しみに観察しよう。

## ミツバチがシッサスの花蜜を吸う

2013年10月11日

我が家から直線距離100メートル足らずのところにミツバチの巣箱が置かれている。新聞にも報道されたが、金城道年さんが、町おこしの考えから、地元で養蜂をとということで始められた。我が家も置くことを考えている。



そこからミツバチが飛んで来て、盛んにシッサスの花蜜を吸っている。台風後は、常時10匹以上が吸っている。地上に植えて、3階ベランダまで伸びてきているシッサスだ。ミツバチはとてもおとなしく、私が10~20センチのところ近づいても、そのまま蜜を吸い続けている。

シッサスの実を、イソヒヨドリを食べる事もある。無論、花蜜を蝶も吸う。

## グッピーではなくカダヤシ=タップミノーを育てていた ついにメダカ育てへ

2013年8月30日





数年以上前から、「メダカ」のつもりの魚を育てていた。2～3年前、息子がそれを見て、メダカではなくてグッピーだ、と教えてくれる。ショックを受けつつも、その後育ててきた。このブログでも時々紹介した。どんどん繁殖し、今年つくった庭の池も含めて、合計4ヶ所で飼ってきた。

この夏休みに来た息子が、実はグッピーではなくて、カダヤシ=タップミノード、と改めて教えてくれた。インターネットのサイトで調べると、やはりそうらしい。蚊を一杯食べるから「蚊絶やし」と呼ぶようだ。

ということで、がっくりきた。そして、水槽の魚をすべて、庭の池に移した。水槽を孫たちといっしょにきれいにした。そして、息子・孫たちと熱帯魚屋に行って、新しい魚を買った。今度こそは、正真正銘のメダカを買う=飼う。

水槽に入れて、もう10日たつ。20匹購入したが、慣れないせいか、数匹が死んだ。だけど、他は定着して元気よく生育している。

卵を、ホテイアオイの根に産みつけて、繁殖することを期待するこのごろだ。



## カマキリがオオジョロウグモを襲って食べる

2013年8月24日

畑仕事をしている私から30センチの距離に、オオジョロウグモとカマキリが視野に入る。双方とも10センチぐらいのデカイものだ。

よく観察すると、カマキリがオオジョロウグモを食べている。カマキリが食べられそうに思うが、逆だった。恐らく、カマキリが意図的に襲ったのだろう。

生存競争の激しさを実感した。

ずっとこのあたりに住む近隣の方に質問。どっちが勝つでしょうか？ オオジョロウグモという答えが多かったが、実際はカマキリだった。あるかたは、クモが鳩を食べたというニュースを聞いたとのこと。だからクモが強いだろと推理したとおっしゃる。

今、我が家は、畑や庭だけでなく、ベランダにも玄関まわりにも、オオジョロウグモが10匹以上巣を作って活躍中だ。我が家を訪問する人は驚かれませんかように。人間に害を与えた話しは聞きません。

## シロチョウ科だろうが、名称不明

2013年8月15日

写真では異なる蝶だが、図鑑で見ると、キチョウ、または、ナミエシロチョウである可能性が高い。







ほぼ毎日見る蝶だが、私には見分けがまだつかない。



## 名称不明 もしかしてヒメホシキコケガ？

2013年8月12日

リュウキュウアサギマダラを追っかけて撮影をしている時、偶然、私から50センチぐらいの距離の階段手すりにとまったものだ。

いろいろと調べるが、よく分からない。一番近そうに見えるのは、ヒトリガ科のヒメホシキコケガだが、似ているだけで、細かい所では一致していない。ともかく蛾の一種だろう。

蝶や蛾の世界は奥行きが深すぎて、素人には大変だ。それだけに逆に興味がそそられる。



## リュウキュウアサギマダラ

2013年8月10日

美しい蝶だ。

庭畑でよく観察していると、たいてい一日に1羽は見つかる。似ているものに、アサギマダラがあるが、本によると、この時期は、本州に渡っているという。だから、写真は、沖縄にとどまっているリュウキュウアサギマダラだろう。図鑑の写真とも一致する。

それにしても、素人には蝶は難しいので、図鑑とにらめっこだ。素人だから、間違いが多いだろうが、お許しいただきたい。



## シロオビアゲハのメスⅡ型

2013年8月6日

シロオビアゲハは、日常的に見かける。メスには、2種類あって、そのⅡ型というのが、とても美しい。Ⅰ型とは全く異なるので、本当にそうかと疑いたくなる。しかし、動き方、全体の形、吸蜜の花の種類などをみていると、



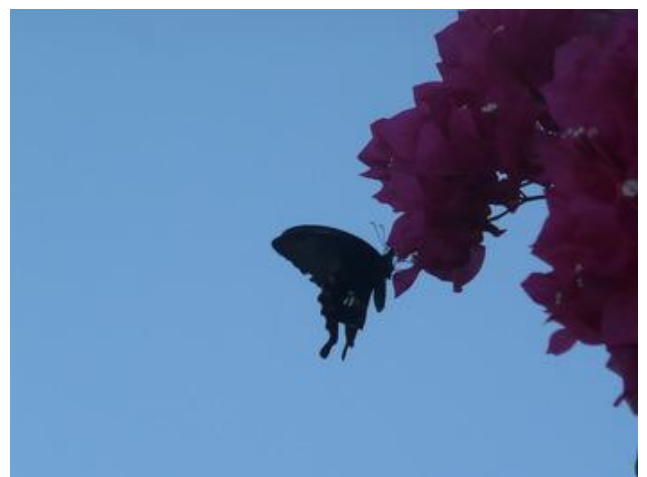
図鑑の通りのⅡ型だということがようやく分かった。しばしば



見かけるのだが、吸蜜中も、前ばねを羽ばたかせるのが普通なので、撮影が難しい。最近ようやく成功したので、紹介しよう。

オスのシロオビがあるあたりに赤い模様があるのが特徴だ。上の2枚はフウリンブッソウゲの吸蜜中。

下の2枚は、ブーゲンビリアの吸蜜中





## 海岸で息途絶えたウミガメ 2013年8月5日

いつもの夕方海岸散歩。

ウミガメが息途絶えていた。昨日の同じ時間にはいなかったの  
で、24時間以内のことだろう。夜に上陸して来るらしいので、  
昨夜かもしれない。

冥福を祈るばかり。

こんな悲しい出会いは二度目だ。

携帯撮影。



## ツマベニチョウ 2013年7月31日

我が庭・畑の常連さんだ。よく見かけるが、この季節は特に多い。



赤と白の鮮やかなコントラストが人気を集める。

図鑑によると、赤い花が好きだそう。赤いハイビスカスにたくさん集まる。我が家の赤いブーゲンビリアにも集まる。

紅白のコントラストがはっきりしているのがオスで、地の白が灰色がかっているのがメスだそう。

だから、最後の写真はメスだろう。

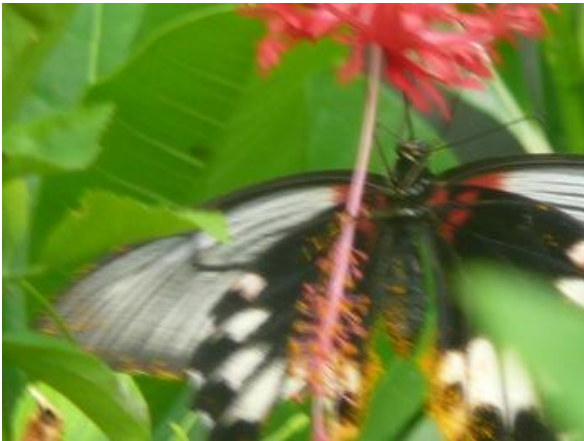




## ナガサキアゲハ

2013年7月28日

名前に自信はないが、多分そうだろう。この仲間には、似たもの多くて、実物と図鑑とを対照しながら、にらめっこしても、素人の私には判断がつかないことが多い。これも何年にもにらめっこしてきたが、今回「多分そ

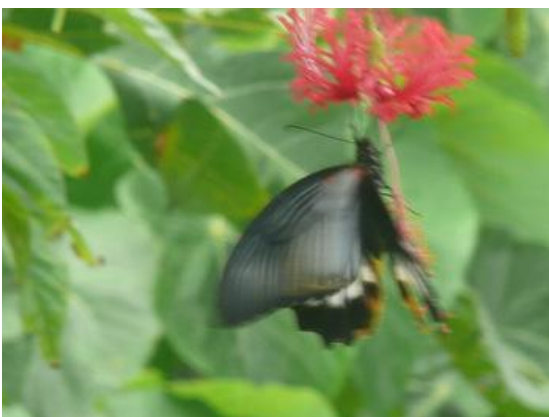


うだろう」というレベルまで来た。とても美しい蝶だ。フウリンブツソウゲの花蜜を吸っている。

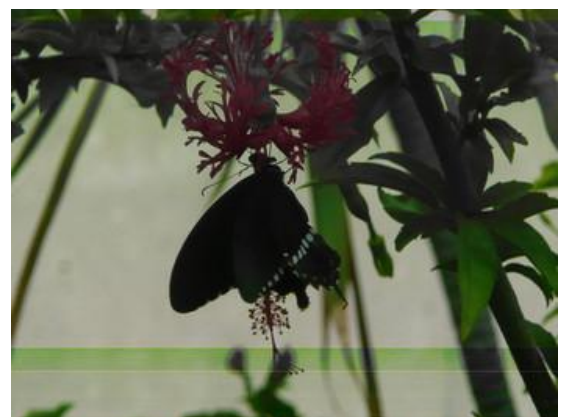


## シロオビアゲハ

2013年7月25日



我が庭畑に、いつもいる蝶だ。フウリンブツソウゲが好きそうだ。





## リュウキュウミスジ

2013年7月23日

毎日、ごく普通に見かける蝶だ。タテハチョウ科。模様が三つの筋になっているから、こういう名前がついたようだ。オスメスの区別は、私にはつかない。2匹ないしは、数匹が群れていることもある。動きが素早いので、うまく撮れないことが多いが、この写真は、我が家入口の橋の手すりにとまったところを撮影。

## アオスジアゲハ 2013年7月20日



花蜜を求めて、チョウチョウが飛び交うこのごろだ。晴れの日、3階ベランダからは、たいてい数種類以上の中型大型が同時に見られる。小型を入れると、もっと増えるだろうが。

だが、名前は、図鑑と照らし合わせても、素人の私には10種ぐらいしかわからない。その蝶々を撮影するのはなかなか難しいが、成功したら掲載していこう。まずアオスジアゲハ。隣の森の大木の花にたくさん集まってくる。







オオジョロウグモ メス オス 2013年7月19日

6月初めから、我が庭畑のあちこちに何十というオオジョロウグモが巣を張っている。気づかないうちにニアミスどころか、ぶつかることさえある。初めての人は驚く。とにかくデカイのだ。7月後半に入ると、10センチは超す。最終的には20センチを超えることは珍しくない。自分より大きいヤモリさえ食べる。

ともかく気持ち悪い。

このデカイのはメスだ。オスは対照的に小さい。1～2センチだ。写真撮影さえ難しいほどだ。メスがつくる



大きな巣の端っこに、何匹かひっそりと暮らしているのが普通だ。交尾が終わると、メスはオスを食べるという。目撃したことはないが。



シロオビアゲハメス？  
(ベニモンアゲハ？) シ  
ジミチョウ ツマベニチ  
ョウ

2013年7月4日

花がいっぱい咲くこの季節は、





蝶々が乱れ飛ぶ季節でもある。

カラミントの花で吸蜜するアゲハチョウ(前ページ右)。だが、名前を特定できない。図鑑で見つけた候補はベニモンアゲハ、シロオビアゲハメスⅡ型(ベニモンアゲハの擬態をすると本には書かれている)。その他かもしれない。

ユーフォルビア・ダイヤモンドフロストの花で吸蜜するシジミチョウ(前ページ左)。シジミチョウのなかの何かは、私には判定が難しい。

右はツマベニチョウ



## カバマダラ物語

2013年6月7日

この一カ月、カバマダラ観察にハマっている。玄関脇に鉢植えのトウワタがあるが、そこにカバマダラの幼虫が大量にいる。数えたら約40匹。2, 3日で葉を食いつくす。

どうするか、と見ていると、茎を食べ始めた。大きくなったのが多いので、さなぎになるのか、と期待していると、どこかへ移動。移動先が不明。近くのトウワタも幼虫にほぼ食いつくされ



ている。

さて、どこにいったのだろうか。

敷地内にたくさんのトウワタを育てているが、似た様子だ。お陰で、カバマダラを敷地のあちこちで見かけるようになった。

ついでの情報。オオゴマダラも、一羽をよく見かける。庭で羽化したものかどうかは分からない。新しい幼虫も発見。定住化しつつあるようだ。





## オオゴマダラの薄い金色のさなぎ

2013年5月23日

しばらく前に、我が庭のホウライカガミあたりをオオゴマダラが飛び交っていること、そして目立つ色の幼虫がいることについて書いた。幼虫は何匹か見つけたが、そのうち一匹が大きくなった。数日前から、その幼虫が見つからない。

22日、その幼虫がさなぎになっているのを発見。我が庭第一号だ。

保護展示されているの比べると、色が薄くて、やや小ぶり。それでも、金色に近く、輝いている。

23日の大雨の中、無事かどうか少々心配になる。

## 「動植物シリーズ5 我が家周辺の動物たち」 HPに掲載 2013年5月17日

私たちは、自然のなかに建てた家に住んでいる。隣は森。我が家も木々が多いので、半ば森のようなものだ。そのため、私達より先に住んでいる動物たちが多い。そんな動物たちと、日々出会っている。これは、その動物たちとの出会いの物語だが、2007年から始めたブログに掲載したものを集約整理したものだ。

写真中心だが、自然に生きる動物たちの撮影はなかなか難しい。数年に一回しかシャッターチャンスがないものもある。たとえば、ハブに出会っても、写真撮影どころではない。ホテルにも一度であったが、カメラを持っていなかった。

それでも、掲載した他の動物については、写真撮影できた。

目次と掲載動物名を紹介しておこう。

### 1. 我が家周辺で暮らす動物たち

## 2. 蝶

おおごまだら      あさぎまだら      いしがけちょう      しろちょう      きちょう  
くろあげは      あおすじあげは      かばまだら、または、つばぐろひょうもん      つまべにちょう  
しろおびあげは      リュウキュウヒメジャノメ      うらなみしじみ      しじみちょう  
いもむし      蛾

## 3. 昆虫（蝶以外）

ななふし（ソーローウマ）      オオジョロウグモ      せみ      いわさきくさぜみ      くわがた  
ばった      やもり      かまきり      かみきりむし      ホタル

## 4. 鳥

いそひよどり      はと      おーぼーとう（ずあかあおぼと）      めじろ  
すずめ      カワセミ      チドリ      サギ      猛禽類

## 5. 水生動物

アーマン      やどかり      かえる      グッピー

## 6. その他

マンゲース      おおこうもり      はぶ      山羊      猫      犬

右写真は、最近撮影したカバマダラの幼虫だ。さなぎになる直前。



## 蝶の氾濫？ モンシロチョウ キチョウ ナミエシロチョウ カバマダラ幼虫

2013年5月8日



この連休は、暑くもなく、雨が降らず、最近では珍しく好天気。そんななか我が家の庭畑は、蝶の氾濫状態。3階ベランダから見下ろすと、いつも数羽以上の蝶が飛んでいる。

このところ一番多いのは、シロチョウの仲間たち。まずモンシロチョウ。図鑑で調べたら、アブラナ科が食草だ。だから、アブラナ科であるキャベツが全滅状態。キャベツ栽培は、これまでも数度試みたが同じ結果。かたつむりのお陰もあるが。





そして、ルッコラ周辺も飛ぶので調べたら、ルッコラもアブラナ科だ。今年は、ルッコラの大豊作なので、結果としてモンシロチョウの大氾濫だ。写真は、無残に食べられたキャベツ。

同じシロチョウの仲間のナミエシロチョウも飛んでいるが、写真撮影できなかった。素人には、蝶の写真は難しい。

右上の写真は、同じ仲間のキチョウだ。

しばらく前に紹介したカバマダラもよく飛んでいる。今回は、幼虫を紹介しよう。

他に、ここ数日で見かけたのは、シロオビアゲハ、アオスジアゲハ、ツマベニチョウ、リュウキュウミスジなどだ。



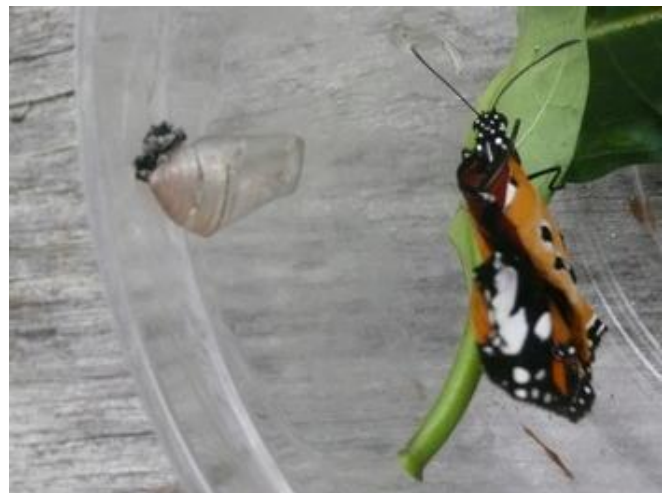
## カバマダラの羽化 2013年4月22日

昨年から、トウワタを我が家のあちこちで育てている。その一つのベランダの鉢に、いもむしを4月はじめに発見。室内で育てていると、まもなくさなぎになる。



中旬に羽化。

しかし、片羽が上手く広げられずに、残念なことに。





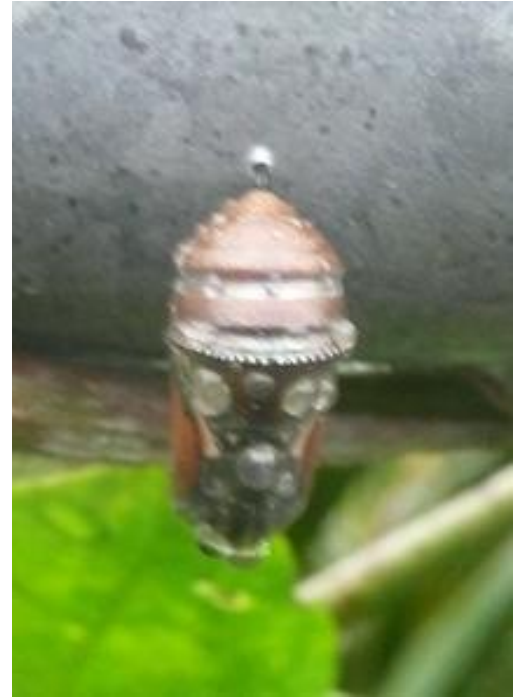
そのころ、玄  
関手すりに、新  
しいさなぎを発  
見

色が徐々に濃  
くなっていく。

羽化開始

このあとすぐ  
に、羽化が完了  
し、無事どこか  
に行った。

図鑑で調べる  
と、カバマダラ



だ。トウワタを食草にするので、これからの我が家では頻  
繁に見  
られそ  
うだ。



## 我が庭のホウライカガミにとまるオオゴマダラ

2013年4月16日







数年前にホウライカガミを植えたが、最近、立派に成長してきた。オオゴマダラがくるのを期待していた。これまでたまに来はするが、滞在時間はわずかだった。

しかし、前日の豪雨が上がり、快晴の15日、長時間、しかも繰り返し滞在していた。もしかして、卵をうみつけたのかな、と期待させてくれる。16日も朝から来ている。

本当に立派な蝶だ。こちらを警戒する様子はない。私の身体にぶつかるぐらいまで近づいてくることもある。

## 干潮で陸上に取り残された海へび

2013年4月7日

5日午前、干潮時間にいつものイノー散策をした。その時、私たちが大好きな巨岩（倒れかかった岩で、私は勝手に「鳥のくちばし岩」と名付けている）の脇で、恵美子が海へびを見つけた。恐らく、潮が引いていくの間に合わず、取り残されたものと見られる。生きているので、少し離れたところからズームアップしてケータイ撮影。ペアの

ように思う。あと1時間もすれば潮が満ちてきて、帰ることができるだろう。

それにしても、これまで恐らく数百回このイノーを歩いているが、海へびに出会うのは初めてだ。生態を知らないなので、よく分からない。

海へびとの出会い





で印象的なのは、25～35年ほど前、琉球大学教育学部に居る頃、渡嘉敷での遠泳の側泳をしばしばしたが、その際、20～30メートル下の海底に海ヘビをしばしば見かけた。ここは透明度がすごいので、よく見える。泳いでいる学生には、そのことを知らせなかった。驚いてパニックになる心配があったからだ。しかも、時々呼吸をしに海面にあがってくる。しかし、海ヘビは大変おとなしく、通常は何も問題は起こらない。

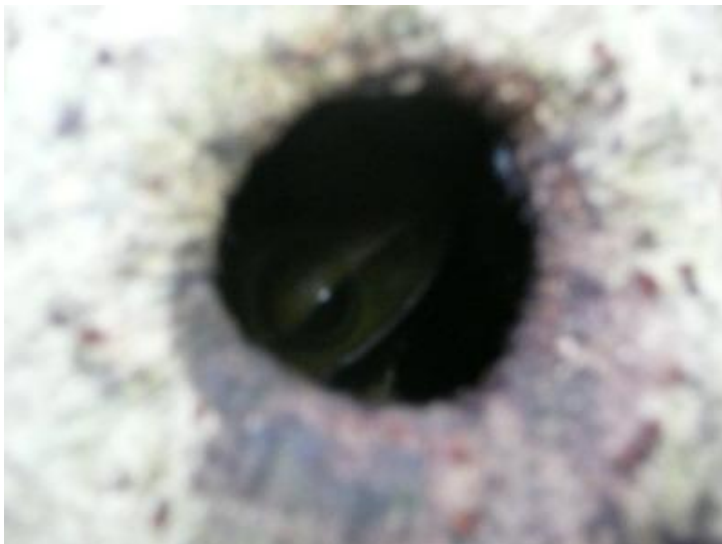
海ヘビを捕獲する権利を、久高の神女が持っている話はよく聞く。捕獲したものを燻製？にして、牧志公設市場で売っているのがよくテレビなどに出てくる。強壮効果が高いらしい。

3～4年前、南城祭りで久高の人が店を出していたので、その時初めて食した。

おとなしいが、彼らを干す作業をしている人が、まだ生きていたものにかまれて大変だったという話を新聞で読んだことがある。

## イシカワガエル オオジョロウグモ やんばる学びの森

2011年8月24日



木の小さな穴から蛙の目がのぞく。  
専門家の案内がなければ、気付くことはない。  
貴重な体験だ。

### オオジョロウグモの話

右写真の左上のはみ出した所には巨大なメスがいます。写真中央のピンボケでうつっている赤いのがオス。1センチあるかなしか。大きさはメスの数十分の1。クモの巣がほんの少しの風でも揺らぐので、この写真で精いっぱい。

翌日のカヌーツアーでいった安波ダムの上流では、一匹のメスの巣に2匹のオスが居るのに気付く。

我が家にも、オオジョロウグモはいるが、オスには気付かなかった。オスは役目を果たした後、メスに食べられる。



キノボリトカゲ  
やんばる学び  
の森 2011年8月  
22日



キノボリトカゲがた  
くさん

孫たちは、夢中になって取る。4匹。

ガイドツアーが終わりに近づいた森で、全員森に返す。



名前不明の蝶 2種 やんばる学びの森 2011年8月19日

これまでの蝶シリーズは、すべて我が家での撮影。少々息が切れてきて、今回はヤンバル学びの森での撮影。ツアーガイドの受付建物近くで撮影。

この蝶、名前がはっきりしないので、職員に尋ねるが、判明しなかった。

アゲハであることは確かだが。

もう一羽は、喜多郎ハウスの近くで撮影。3～4センチぐらい。

これまた図鑑で調べても名前が分からない。



## サンダンカで蜜を吸うクロアゲハ（推定）

2011年7月21日

我が家には、たくさんの蝶が飛び交っている。写すのは大変だが、挑戦してみようと思う。写せたものから順に掲載していく。

一杯花をつけているサンダンカを写していた。ちょうどそこに、クロアゲハが飛んできた。

その前に、撮ろうとして、追っかけていたのだ。追っかけると撮れないが、偶然、あちらの方から飛び込んできた。



クロアゲハであるかどうかは自信がない。図鑑で一番にているものがクロアゲハだった。



# 植物・森

田中淳夫「森と日本人の1500年」平凡社2014年を読む

2015年4月3日

自然と人間の関係についての本は、以前から好きだったが、自然豊かなここに住んでからなおのこと読むようになった。自然については知らないことばかりだからだ。というより、知れば知るほど、知らないことを発見する。

木・林・森についても同じことだ。今から20数年前、姉夫妻と一緒に名古屋の東山の森を散策した際、木の名前のクイズがあったが、姉がほとんど知っているのに、私は数%しかわからなかった。それ以来、木について知りたいと思い始めた。

ちょうどそのころ、林野庁から木についての投資の提案があって、私も応じた。それが今、沖縄でも裁判になって話題を呼んでいる。一口50万円だが、実際にはその半額ほどしか戻ってこないのだ。今は子どもたちの名義になっているが、私が購入したのは半額ほどの値打ちになり、それでも入札不成立のようだ。

その当時は、自然に投資するのは環境にも優しいし、価格が落ちているが、10年20年もすればよくなるだろうと、私も予想していた。想定外の状況になっているのだ。



そんななか読んだ本書も、知らないことだらけというか、私の「常識」が常識外れなことをいくつも教えてくれた。例をあげよう。

「鎮守の森の植生 (中略) 照葉樹林が広がるのは戦後か、せいぜい明治以降である (中略) 今ある照葉樹林は昔から存在したのではなかった」 p 26

「戦後は薪や堆肥を使わなくなり、伐採や落葉の採取がなくなった。建築にも外材を使うようになった。その結果、遷移が進行して照葉樹林に移行したのではないだろうか。鎮守の森に手を入れなくなったのは、神聖だからではなく必要性がなくなったからなのだ。」 p 27

「エネルギー資源としての薪の大量消費は、日本の山を疲弊させた。そして禿山を広げていく。里山は、必ずしも雑木林に覆われているとは限らなかった。」 p 39

和紙の原料は、外国産 p 40

和紙の材料にはパルプや古紙を混ぜている p 4 1

国土の森林率 明治初期45% 現在67% p 4 8

1894年 森林の70%は禿山 p 1 2 2

素人の私を驚かさず記述が続く。

沖縄でも、首里王府時代の首里城建築の資材、戦争による森林破壊、戦後の燃料資源としての山林採取などの歴史がある。そして、今では建築資材にしても、燃料資源としても、森林活用が著しく低下している。

自然環境としての森林の役割は高まっているようだが、どうなっていくのであろうか。

## ススキ林

2014年10月17日

海岸散策中に美しい穂を出しているススキ林に出会う。まっすぐ立っているのが、ススキでなさそうに見えたが、数日後には垂れ始めたので、ススキだろうと思う。



## 田中修『植物はすごい』中公新書2012年を読む

2013年8月2日

私は植物に囲まれて生活している。現在の生活になる10年以前とは格段に高レベルで植物と一緒に暮しをしているので、植物への関心はいやおうなしに高まる。

そんなことで、書店で見つけたこの本を読む。中学生高校生でも読めそうな本で、発刊後半年で9版となっている。

章節タイトルを見ると、本書の内容が良く分かるので、紹介してみよう。

### 第一章 自分のからだは、自分で守る

(一)「少しぐらいなら、食べられてもいい」

(二) 食べられたくない！

### 第二章 味は、防衛手段！

(一) 渋みと辛みでからだを守る

(二) 苦みと酸みでからだを守る

### 第三章 病気になりたくない！

(一) 野菜と果汁に含まれる防衛物質

(二) 病気にならないために

### 第四章 食べつくされたくない！

(一) 毒をもつ植物は、特別ではない！

(二) 食べられる植物も、毒をもつ！

#### 第五章 やさしくない太陽に抗して、生きる

(一) 太陽の光は、植物にとって有害！

(二) なぜ、花々は美しく装うのか

#### 第六章 逆境に生きるしくみ

(一) 暑さと乾燥に負けない！

(二) 寒さをしのぐ

(三) 巧みなしくみで生きる

#### 第七章 次の世代へ命をつなぐしくみ

(一) タネなしの樹でも、子どもをつくる

(二) 花粉はなくても、子どもをつくる

(三) 仲間とのつながりは、強い絆

少しは知っていることもあったが、ほとんどが新鮮だ。へえー、なるほど、と感ずることの連続だ。中には、知恵を実用に生かす必要を感じたものもある。

モロヘイヤは、栽培し、よく食べるのだが、毒をもつ部分があるので、「葉っぱ以外の花やタネを食べてはいけません」P117 というのは初めて知った。

他方で、私の経験と異なる個所もある。

「午後一〇時ごろから甘い香りを放ちながらゆっくりと大きく花を開くゲッカビジン」とあるが、私の経験では、午後七～八時から開き始め、九時には満開になる。

いずれにしても、楽しく有意義な本だ。

### 今時、はぜ(櫨)の紅葉？！

2013年3月5日

沖縄でも落葉広葉樹があり、紅葉があるのだが、その代表格は、はぜ(櫨)だ。

我が家に隣接する森の木が、我が家の中まで伸びてくるが、時々カットするほど近い。昨年、一昨年の連続した台風のために、隣の森の木も折れてしまい、高さが半分になってしまった。ようやく最近、しっかり





した回復をはじめた。

そして、なぜか今時、紅葉した。

## グスクロード公園への階段道からの景観 富里→グスクロード

2012年2月5日

公園への階段道からの景観、これまた絶景。写真は南西方向。手前から富里・當山・志堅原・堀川・港川・具志頭・摩文仁



西北西方向は那覇だが、ズームアップすると、東シナ海を経て慶良間が高山のようにそびえて見える（中左写真）



グスクロード公園入り口に立つ石獅子。写真は、三体のうちの中央のもの。石獅子は、災害から守る役目を持つといわれ

るが、どっち向きかで、二人で議論。富里を守るのか、公園を守るのか。写真の獅子は富里を守っている。



## 動植物風景4つ クロトン葉もどき 枯れ松伐採 ハーブ ハブ 2012年1月30日

このところ寒暖の差が激しい。動植物もいろいろの表情を見せる。

1) 左写真の葉は、クロトンの葉とそっくりだが、実はオオバナアリアケカズラの葉。驚いた。よくあることなのか、今年に限ったことかはわからない。



2) 前ページ右下写真。隣の森の4本松のうち3本が枯れしてから、1~2年が経過した。先週、その巨大松が伐採された。

左端に残った松一本が長寿であることを祈る。

3) ベランダの鉢に、ジャスミンマツリカの苗を植えた。玄関脇の木の枝を水につけておいたら、根が一杯出てきたからだ。

鉢の残った空間に、コリアンダー、レモンバウム、カモミールの種をまく。12月にはすでに立派な苗になったのだが、すべてカタツムリに食べられた。2回目、ガラスでふたをして守ってあげたら、うまくいった。

右上写真が、ジャスミンマツリカ。



右下の写真には3種類のハーブ苗が数本ずつ写っている。



4) ハーブではなくて、ハブ  
右写真  
散策中の海岸

沿いの道路で遭遇。急に暖かくなってきたので、出てきたのか。それともサトウキビ倒し作業の際にでてきたのか。もしかして、その朝、救急車が通ったのは、そのためか。

ヒメハブだろう。首が切られている。

数年前の急に暖かくなった2月のある日、我が家駐車場に夜8時ごろ巨大ハブが出現。冬にもでるのだ。用心  
用心



サ ト  
ウ キ  
ビ と  
ス ス  
キ の





## ツーショット 2011年12月12日

かなり以前の話だが、沖縄視察に来た国サボっていて、畑にススキを繁殖させている」と発言して物議をかました。

都会暮らしをしている素人に、区別がつかない人は多い。このあたりの訪問者を畑につれていくと、サトウキビを初めて見るという人がたくさんいる。

そこでおせっかいだが、サトウキビとススキの穂のツーショット写真をのせる。

白くてスツタチあがっているのがサトウキビ。茶色がかって、垂れているのがススキ



それにしても、今年は、二つの大きな台風で、サトウキビ収穫は激減のようだ。そして南城周辺は、雨量の記録的多さなどが重なって、農作物は大変だ。我が畑もそうだ。雨量の多さは、カタツムリ類による食害をもたらしている。



## ヒ ガ ン バ ナ

2011年10月9日

ヒガンバナが、沖縄でもあることに初めて気づいた。先日の奥武島ウォーキングの際に見つけて撮影した。色違いでもある。

一つは道路沿い、一つは庭であるが、自生のもではなく、栽培されたものだ。沖縄で自生のものがあるだろうか。





## トックリキワタの実を開く ワタがでてくる 2011年3月30日

しばらく前の記事で書いたトックルキワタの実を開いて見る。

たしかにワタがでてくる。



## ハマジンチョウ (佐敷 富祖崎)

2011年1月30日

以前から一度は見に行かなければ、と思っていた。  
新聞に掲載されたので、出かけた。

思ったよりずっと小さく可愛い花だ。

木は結構大きい。海岸のマングローブの近くにある。

この隣には、私がいつも卓球練習に通うさしきスポレクセンターがある。でも、夜だから、この花を見るのは初めてだ。右下が群生風景





## 濱川御嶽と受水走水との中間にある大木

2011年1月7日

高さ十メートルを超えそうな立派な木  
このあたりには大木が多い  
昔話でもありそう

## 濱川御嶽脇のガジマルの気根がつくる空間

2011年1月6日

我が家近辺には、森の景観ですてきなところが多い。  
今はやりのエネルギースポットなのだろうか。  
この気根たちがつくる空間もなにか神々しい。







## 新年散歩 玉城少年自然の家ウォークラリーコースを歩く

2011年1月

1日

元日、寒さにめげずにウォーキング。  
いつも海岸に行くが、今日は、山へ。

前から気になっていた玉城少年自然の家ウォークラリーコースを歩いてみる。我が家近くにその入り口の案内看板があるので、それに沿って歩く。初体験。

結構、趣がある。

途中、でかいガジマルの木に出会う。

意外に短いコースだった。その後、グスクロードを経て、我が中山の山道に戻るコースをとったが、我が家から出て帰るまで、7000歩だから、5キロ。山道なので、ちょっと大変だが。





# 書籍

## 佐藤寛之「琉球列島のススメ」東海大学出版部 2015 年を読む 楽しく生物にアプローチ

2016 年 3 月 22 日

店頭で見つけた本だ。硬い本ではなく、著者自身の体験談をもとにしたものだ。親しみやすく感じたのは、登場してくる生き物に、私自身が接してきたものが多いことに加えて、著者の体験は推理しやすいし、登場してくる人物に知人が多いこともある。

章立てを紹介しておこう。

沖縄生活のススメ 海モノのススメ 毒モノ、キワモノ体験のススメ  
陸モノのススメ 琉球列島の春夏秋冬 離島のススメ  
野外調査のススメ 環境教育のススメ 珊瑚舎スコーレ  
泡瀬干潟で環境教育 教材作りのススメ 生涯学習のススメ

本書は、琉球大学で生物を学び研究することから始まった著者の半ば自叙伝だ。私は対照的に「生物嫌い」のまま、30歳ぐらいまでを送ってきた。きっかけは、本書に出てくるような「理科嫌い」ではない。幼児期に自分の手のひらを傷つけて、血を見て以来、血を見るたびに失神ないし失神に近い反応をするようになったことにある。5CCの血液検査で失神したことは数えきれない。中学の生物の授業時間に、血の話聞くたびに気分を悪くし退室を我慢するのに精いっぱいだった。

それでも、30代半ばくらいから、沖縄で生き物に親しむ機会が増え始める中で、そうしたことも少しずつなくなってきた、今ではすっかり生き物好きになってしまった。

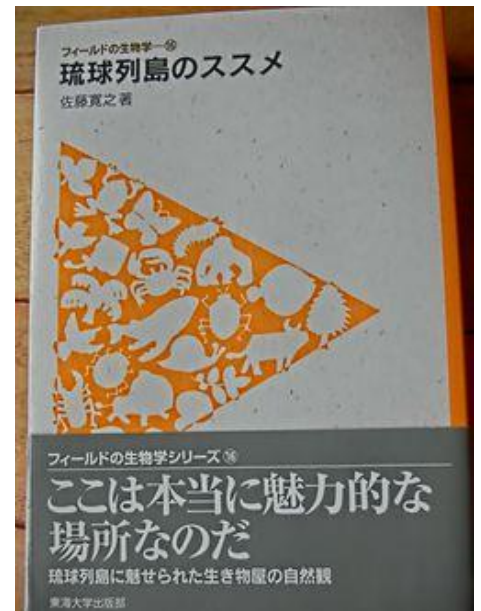
そんな生き物好きになった一つの理由に、琉球大学の生物学科などの学生たちとの付き合いもある。私の授業では、生物系の学生がかなり受講して活躍していった。受講生どうしで結婚した例も複数ある。今も、生物系学生が、私の授業で活躍している。

かれらに共通しているのは、学びたいこと研究したいことが明瞭にあって入学し、それに打ち込んでいることだ。実に生き生きしている。自分でやらなくては始まらないタイプだろう。私の授業も、レクチャ型と対照的な実技的創造的なのが、かれらを生き生きさせているのだろう。

著者とは面識はないが、まさにそうした人物であることが、伝わってくる。

今や70代になっている生物系琉大生のOBたちの野外観察に連れていってもらったこともある。

振り返ると、人付き合いが私の生物付き合いを促進したのだろう。



今、日々、我が家に庭畑や海岸・森で、生き物とつきあっているが、そのことにかかわる知識も本書からたくさん仕入れた。360ページもある本だが、いっきに読んだ。

## 琉球大学の「沖縄の自然は大丈夫?」「琉球列島の自然講座」を読む

2015年7月7日

私は時々、自然科学の本を読む。好きだし、専門外だから、知らないことだらけで、新鮮さを感じる事が多く、楽しいからだ。

今回は、琉球大学ブックレットの一冊である、中西希・中本敦・広瀬裕一「沖縄の自然は大丈夫?」沖縄タイムス社2015年、そして琉球大学理学部「琉球列島の自然講座」編集委員会編「琉球列島の自然講座」ポスターインク2015年、だ。



「沖縄の自然は大丈夫?」は、「生物の多様性と保全」を中心としているが、私が日常的に出会うオオコウモリをはじめとする生き物の話が続出で興味津々だった。私が、一時メダカと間違えて飼っていたカダヤシ（タップミノー）が外来種だとか、屋根の上からガジマルの木が育っているのも、オオコウモリの食事の結果だとか、いろいろと面白い。周りの園芸草花のほとんどが外来種であるので、気にしだしたら大変だが、少しずつ在来種を大切にしていきたいと思う。

「琉球列島の自然講座」で、興味をもった箇所を少しだけ書いておこう。

「一見すると、スタジイの優占する森が亜熱帯林の本来の特徴と思われるが、過去の人為活動も、現在観察される森林の構造に部分的に影響している可能性がある。」p71 は、全く初耳のことだ。

p150以降の「琉球列島の構造」「古い基盤岩の帯状配列」などにも興味を持った。ここには、地質の歴史が描かれているのだが、他にも、気候や生物の歴史に触れた所は多い。それらを整理して「自然史概念図」のようなものが、琉球列島における人類史と重ね合わせて描かれるとありがたいと思う。

たとえば、火山活動・地震・津波、また気候変動が、列島に住む人々にどのような影響をもたらしたのか、逆に、人々の活動が自然にどのような影響をもたらしたのか、といったことを歴史的に明示していただきたいと思う。すでになりに明らかなになっていると思うが。

呼吸器が弱い私にとって、次の記述は、なるほどと感じる。

「大気エアロゾルには多くの化学物質が含まれている。海水由来の化学物質や、化石燃料の燃焼や車の排気ガスから出てくる化学物質、さらに黄砂に含まれる土壌成分などである。それらが異なる割合で大気中を浮遊し、

沖縄にやって来る。それらを野外で一定期間捕集して化学成分を分析すると、沖縄の大気汚染物質に関する情報得られる。

(中略) 沖縄島北端の辺戸岬にある国立環境研究所辺戸岬大気エアロゾル観測ステーション (中略)

採取したエアロゾルの色が季節毎に異なっている。春は黄砂の影響で黄色がかり、夏は大気中のエアロゾル量が少ないため、全体的に薄い色である。夏は、太平洋からの清浄な空気が流れてくるため、大気中のエアロゾル量は最も少なく、1年の中で最も澄んだ空気に覆われる。秋と冬は、全体的に黒色となる。これは、大気エアロゾル中に有機物が多いことを示している。ここ10年近くの観測から、大気エアロゾルに含まれる主要な大気汚染物質は、夏にくらべて、春は2倍程度高いことが明らかとなっている。沖縄周辺の大気に含まれる化学成分は、中国大陸からの越境汚染物質に大きく影響されている。」 p 177

11月後半から4月ごろまで毎年苦しんでいる私の呼吸器が、大気エアロゾルの変化にストレートに反応していることを、改めて自覚する。



## 自然とつきあう本数冊を読む

2014年5月23日

ここに住み始めて10年間、自然とともに生きる。だから、毎日、自然を観察している。

風、朝陽夕陽を中心に太陽、月星、植物、昆虫を中心に動物など

書店にいても、目につく関連書が多くなる。3月末にも数冊購入してきた。そんな本を紹介しよう。

岩槻秀明「雲の図鑑」

KKベストセラーズ

2004年

読書後、毎日のように雲を見ている。「10種雲形」というのが、わかるようになってきた。

水口博也「プロに学ぶデジタルカメラ「ネイチャー」写真術」講談社2014年

このブログをするようになって以降、デジタルカメラを購入して、撮影するようになった。第一号が壊れたので、今は第二号。でも、自動プログラムでシャッターを押すだけだった。少しは学ぶ必要を感じたので、読書。少々難しすぎたので、活用できそうなのは、1割程度。ゆっくりとやっていこうと思う。







安里肇栄「おきなわ野山の花さんぽ」ポーターインク2013年  
 読んだ沖縄の植物本は、もう10冊ぐらいになったろうか。でも、  
 対象となる植物が異なると、新発見が多い。とくに、こうした「雑  
 草」の類は、日常的に見る割には、名前や特性を知らないものだ。

田中修「植物は人類最強の相棒である」PHP研究所2014年  
 いろいろな植物を知るといよりも、植物の背後にある巨大な歴史や、  
 人類と植物とのいろいろななかかわりを知るうえで、楽しい本  
 だった。

「サツマイモの品種改良は、主に沖縄県で行われます。沖縄県では、  
 サツマイモの花が咲きやすいのです。」P167

これは知らなかった。我が畑のサツマイモも、最近つくり出された  
 「茎葉収穫」目的の  
 品種だが、よく花が咲



く。そういえば、本州では花を見る機会が少なかったことを思い出  
 す。

こういう本は、ライブラリーではなく、身近に置いて、観察に役  
 立てるようにしている。

雲を見て、「これは〇〇雲かな」と判断に迷ったときに、見られる  
 ようにしているのだ。

## 岸由二「流域地図」の作り方 川から地球を考える」筑摩書房2013年を読む

2014年01月21日

書店店頭で興味をそそられたので、購入して読む。

著者は、「あとがき」で、次のように力説する。

「温暖化の危機にしろ、生物多様性の危機にしろ、基本的にはどれもこれも、生命圏の大地の凸凹、水の循環  
 などを枠組みとして対応せざるをえない課題であることは、とくに難しい思索なしでも自明のことといえるだろ  
 う。

しかし、現実の暮らしや行政の実践領域では、自明でない。豪雨水害の解説が、いまだに行政区で語られるの  
 が常識というのは、何よりの証拠といえる。生物多様性の危機に孤立的な里山概念で対応するのも、行政区で洪  
 水を論じるのとおなじくらい頓珍漢なアプローチである。

そんな的外れ、頓珍漢が、なぜ常識とされ、いつまでも続くのか。

私の意見を言えば、それは、私たちの共有する世界イメージ（地図）の基本がデカルト座標の地図で構成され、微動もせず継続されているからだ。

洪水は行政区で起きるのではなく、流域という大地の凸凹で起ると、ある日鮮明に理解しても、暮らしのほとんどの領域は行政地図に仕切られており、流域への関心はまもなく行政地図の常識の海にのみこまれてしまうのだ。

地球温暖化・生物多様性の危機に、ありとあらゆる地域において有効に対処し、生命圏への文明の最適応を円滑にすすめるためには、この摩訶不思議な地図の文化の只中で、生きものたちがあふれ水の循環する凸凹大地でできているという新しい地球地図の文化を、育てていくほかないと、私ば信じているのである。

文明の底を形成しているそんな地図の領域に、実のある大きな転換を引き起していくための、もっとも有効なツールが、流域地図、流域思考と、私は見極めていのである。

私たちの暮らす雨の降る生命圏は行政区によって区切られているのではなく、無数の流域の入れ子構造、入れ子地図でできている、という認識への広く大きな転換は、実は、ツールとしての地図の流行などではなく、地球で暮らす文明そのものの転換につながっていくのだと、私に考えていのである。」 P 149-151

刺激的で、小学生のころからの地図好きな私は、強力に興味をそそられる。早速、本書で示されているサイトで、我が家周辺の地図を見てみるが、水の流れや流域のことはよく分からない。

それでも、私が住む流域の「川」（と呼べるほどではないが、一応川ではあろう）のビンガーについて関心を持ち、しばし観察思考したくなった。もっともビンガーという名前は細かい地図でも登場せず、長年使われてきた地域の通称というものだろう。ビンガー流域については、改めて書きたいと思う。そして時間をかけてビンガー流域地図を作りたくなった。

## 「写真集 沖縄田舎暮らし 自然につつまれて」電子本発刊

2012年2月3日

初めての電子本が、2日発売となった。

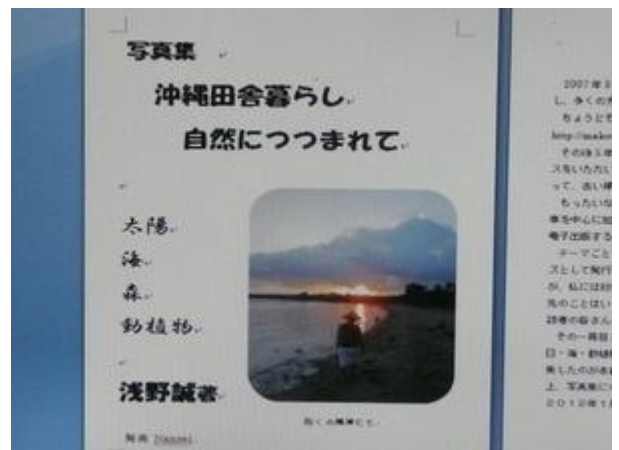
初体験なので、いろいろと新しい体験をした。

発売をする Nansei も、昨年末から開始した仕事だったので、苦勞が多いようだ。

苦勞の一つだけ紹介しよう。

私がワード2007で作成したものを Nansei で電子本スタイル（PDF）にして、電子本サイトに掲載するという流れことだが、Nansei では、ワードの前のバージョンで作業しているので、その変換作業が必要だった。そして、発行に必要な手を加えてPDFにしたわけだが、その過程で、苦勞の一つが生じた。

それは、写真によって、横筋が一本だけ入る時があるとい



うことだ。そんなに多くない写真だし、画像を拡大縮小すれば、消える。技術的な調査をしたが、原因不明。多分、画像の角を丸くした作業の影響ではないか、ということだった。

ということで、どうにもならないので、価格を800円→700円（発売特別価格400円→350円）と、割引きすることにした。本を見る場合に、実際の影響はほとんどないのだが。

さて、今回の本は、しばし前の記事でも書いたように、このブログ記事で、容量の都合ですでに削除したものを「復活」させたものだ。私の下手な撮影だが、我が家近辺の自然の写真集だ。

私のこれまでの本は、重い文章ばかり、という印象だったが、今回は、文章は写真へのコメントだけの、『軽い』本だ。もしかすると「幸せ」「癒し」を感じるかも。

## 粘菌の衝撃

2011年5月15日

12日記事に紹介した都甲潔ほか「自己組織化とは何か 第2版」に、「粘菌」が登場する。その章の冒頭には、「粘菌、このけしからぬ生物」という小見出しがでてくる。

粘菌を私が知ったのは、3年前熊野訪問した際に立ち寄った南方熊楠の博物館でのことだ。私の卒業生のお父さんが熊楠の後継研究者のお一人でもあったようだ。でも、粘菌は不思議な生物であることはわかったが、私の理解の範囲を超えるものだった。しかし、この書で少し分かったような感じがする。

なにせ、こんな生物なのだ。

「かつては、粘菌はどのような生き物かはっきりしない不思議な生命体として注目され、現在は、人間の脳と同じように高度な情報処理能力をもつ原始的な生命体として注目されている。（中略）

いま、生物を動物・植物・菌類・原生生物・モネラ（バクテリア）に大別する五界説に従って、粘菌を分類してみよう。まず、粘菌には核があるため真核生物に属し、核をもたない原核生物のバクテリアの類とは大きく異なる。次に、餌を求めて動き回る（「走化性」という）ことを考えると、植物というより動物的でもある。そうかと思うと、胞子を作るという点で、菌類的である。高等植物の眼といわれるフィトクローム類似の光調節系をもつという点で、植物的である。そして最後になるが、単細胞であるという点で、原生生物である。

このように粘菌は、真核生物の四界のすべてにわたる性質をもつ。つまり、粘菌はどこに分類してよいかははっきりしない、あるいは、分類を拒絶する、けしからぬ生物とでもいえよう。」P58～9

これだけでも興味深いが、さらに粘菌の特性として、次のようなことが書かれている。

「粘菌は空間情報や連結性を、あらゆるところで並列的に計算し、ダイナミックに形を決めていることがわかる。現在のコンピュータのように中央集中型ではなく、自律分散型である。逐次計算の単なる積み上げではなく、状況の変動をいつも考慮しているので、状況の変化に柔軟に対応できる。これらが粘菌型計算機の特徴である。P86」



中央集中型に深く浸され毒されている私たちの世界からみると、自律分散型は敬意すら抱かさせる。すごいことだ。これが単細胞生物がなせる技なのか、と感嘆させ、私たちの見方をひっくり返す。

そして、粘菌は必要に応じて管をつくり、次のように色々なことをする。

「粘菌の管は、大量の原形質を効率よく流すための構造である。巨大な細胞が化学信号の伝達、栄養分の運搬を素早く広範囲に行うための物質輸送経路である。這って移動するには数時間以上かかる距離でも、管を通すと、数分で移動することができる。」P 8 6

「感嘆極まりなし」だ。

## 興味深い「自己組織化」 相互作用・協同作用の妙

2011年5月12日

都甲潔、江崎秀、林健司、上田哲男、西澤松彦「自己組織化とは何か 第2版」(講談社2009年)を読む。

自然科学の本は、年に2,3冊しか読まないが、縁遠い分野だけに新鮮な発見が多く、気分転換になる。もっとも、とっつきにくい点も多い。コメントしたくとも、できないことが普通だ。

しかし、本書は、自然科学の本にしては、素人の私にもわかる個所がおおしい、新鮮な発見が多いものだった。

複雑系とか自己組織とかは、私が高校時代に習ったような自然科学とは異なる新たな世界を提示してくれる。たとえば、事物を微細なレベルで分析し、それらを集積すれば、何かがわかるという従来の発想を飛び越える。

「自己組織化はカオスと並び、複雑系の二本柱を構築する重要な概念である。複雑系——最近ひんばんに聞く言葉である。ある系が複数の要素からなり、各要素は各自のルールでふるまうと同時に、これら要素間は互いに相互作用する。これら要素の集まりとして系全体のふるまいが決まるが、今度はこれが要素間のルールや相互作用に影響を与えるというものである。このような系を複雑系と呼ぶが、これはまさしく私たち生物自身であるし、社会そのものである。」P 7

「自然界はランダムな方向に向かう(エントロピー増大の法則)、しかし現実には雪の結晶や、私たちをはじめとした生物では明らかに秩序のある構造(そして状態)が実現している(中略)そこで重要な役割をはたすのが、数学的には「非線形」という概念であった。一足す一が二とはならない世界である。また通常は多くの要素が集まって初めて見られる現象であり、これは非線形を生じ、巨視的には「協同現象」として観測される。」P 3 4

この世界は、なにか司令塔のようなものがあって、その指示で末端が動くと言う世界とは異なる。また、予め作られた計画やプログラム通りに物事が運ぶというわけではない世界を提示する。くだけて言うと、きまりきった世界でもないし、権威主義がはびこる世界でもない。おのおのが自主的に、かつ相互関係・協同関係を豊かにもちながら、動いていくという世界である。

機械論的な世界がはびこりやすい自然科学のなかで、こうした新たな世界が提示されてきていることは、興味深い。